「変わり葉ゼラニウム」の日本への導入および発展の歴史*

島田有紀子[1)]

History of introduction and development of Fancy-leaved Zonal Pelargonium in Japan*

Yukiko Shimada[1)]

Summary

The history of introduction and spread of Zonal Pelargonium and fancy-leaved Zonal Pelargonium in Japan was studied, with accumulation of old documents and useful information through individuals familiar with the plants. All varieties recorded in the past were examined about their background of breeding year, breeder's name and characteristics.

Zonal Pelargonium came from Netherlands into Japan around the end of the Edo era (the mid-19th century). This group was introduced in the Owari region (present Aichi Prefecture) in 1864, according to the description in Watanabe's *Shinto-kayo-zufu*, the illustrative books of alien plants at that time. The illustrations of Pelargonium included in this book are the oldest ones in Japan, from the result of this investigation.

Initially, Zonal Pelargonium attracted little attention, but gradually gained popularity along with successive import of various varieties from Europe, in the late Meiji era, by several Japanese nurseries, i.e., Yokohama Nursery Co. Ltd.

Fancy-leaved Zonal Pelargonium gradually became popular from around 1909, and spread throughout Japan with the efforts of nurserymen in Niigata, who first recognized their distinct commercial value and purchased them in the spring of 1914.

The first boom of fancy-leaved Zonal Pelargonium arose in 1914-1916. Imported varieties were given each Japanese name. Various hobby clubs of them were established and scattered in many cities and towns. They issued the ranking lists (Banzuke in Japanese) of varieties. The major varieties imported during the early period had large and thin leaves. When people found rare and good shoot as sport, they vegetatively propagated them by cutting. The varieties such as 'Kokuunryu' and 'Shiunryu' imported into Japan in around 1915 had small and thick leaves with richer color. Japanese original breeding work using these two varieties started, and several new varieties were produced and released successively. In 1927-1929, the second boom of fancy-leaved Zonal Pelargonium occurred and growing/breeding of them was gained special attention for the object of money-making. Thereafter, the Japanese Pelargonium Association was established in 1932. The third boom of growing them occurred in around 1939 with small scale.

After World War II, the fashion of fancy-leaved Zonal Pelargonium has been declining to the present.

In summarizing historical documents in Taisho and Showa era, more than 300 varieties were found to have been imported or bred in Japan until the Showa era. At present, many varieties of them have been extinct already. However, about 50 varieties have been preserved and still cultivated by the Hiroshima Botanical Garden.

---

* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.100.
1) 広島市植物公園　731-5156　広島市佐伯区倉重 3 丁目 495

緒　言

「変わり葉ゼラニウム」とは，ペラルゴニウム属の中のゾナレ・グループ（*Pelargonium* Zonal Group, 通称ゼラニウム．大場，2009）の中で，葉の斑模様や形，質感などが特異であるという特徴，すなわち「葉芸」をもつ品種群を指す．「斑入り葉ゼラニウム」，「錦葉（にしきば）ゼラニウム」，「変葉天竺葵（へんようてんじくあおい）」，「変葉葵（へんようあおい）」または「葉変葵（ようへんあおい）」と呼ばれることもある．葉色は単に斑が入るだけではなく，黄色や赤色の1色のものから5色以上の様々な模様が複雑に入り混じるものまで多彩で，季節によっても変化するほか，葉形も石化や葉縁の波打ちなど，実に多様である．そのため，広島市植物公園では一般市民にも分かりやすいように，「変わり葉ゼラニウム」と呼んでおり，本稿ではそれに従った．

変わり葉ゼラニウムは明治末期から昭和初期にかけて大流行し，一種のバブルを生み出したことがあったが，第2次世界大戦後は，葉芸よりも華やかな花を観賞するゼラニウムが中心となり，衰退していった．本草学者が多くいた江戸時代に比べると，明治時代以降の園芸植物に関する資料は少なく，変わり葉ゼラニウムの来歴や日本で流行したいきさつ，当時の熱狂の様子についてはあまり知られていない．ブーム時には変わり葉ゼラニウムを扱う植木屋や同好会組織が各地にあったが，現在はまったくない．当時の様子についても，平成25年4月まで営業していた愛知県岡崎市の斑入り植物専門会社・旭植物園の3代目園主・加藤政治が先代からの話を記憶しているだけであった．

一方，当園では，約30年前より変わり葉ゼラニウムの収集を始め，栽培を続けてきた．しかしながら，枝変わりで生まれた品種が多いため，栽培途中で斑が消える，葉の形が変化するなど，形質が不安定であり，その品種の「本芸」，すなわちその品種の本来持つ「芸」が巧みに表現された状態を保存・継承していくことが大変困難であった．もとより，品種の本芸を紹介した写真や記述が乏しいため，すでに保持している品種が正しいかどうかも分からない状況にあった．

全国的にみても，当園と少数の個人愛好家を除き，変わり葉ゼラニウムを系統保存しているところはなく，貴重な品種が後世に残せない危機的状況にある．

以上のような背景から，本研究の第1章では，変わり葉ゼラニウムの園芸史を知るうえで大前提となるペラルゴニウム・ゾナレ・グループの渡来について，種々の資料調査を行い，第2章では変わり葉ゼラニウムの渡来と流行について，さらなる資料調査と聞き込み調査を行った．第3章では，当園保有の品種について，旭植物園の加藤政治に同定を依頼するとともに，文献による照合を行った．加えて，日本に現存しない品種も含め，このたび調査したすべての品種を取りまとめ，解説や写真による記録を残すことにした．

第1章．ゼラニウムの渡来と普及

通称「ゼラニウム」とは，フウロソウ科ペラルゴニウム属の中の一つの園芸品種群（*Pelargonium* Zonal Group．大場，2009）を指し，かつてゲラニウム属（*Geranium*）に分類されていたことから，今もその名残で「ゼラニウム」と呼ばれている（塚本，1989）．

本章では，変わり葉ゼラニウムを含むゼラニウムの渡来とその後の発展について述べる．

(1) ゼラニウムの渡来

白井光太郎著の『植物渡来考』（1929）に，

テンヂクアフヒ

名称　漢名洋葵

来歴　南亜非利加の原産にして維新前渡来す．

と記載されていたことから，幕末を中心に資料調査を行った．なお，テンジクアオイとはペラルゴニウム属の和名（塚本，1989），あるいは *Pelargonium inquinans* の和名（石井，1955）を指すが，単に園芸品種を含めたペラルゴニウム・ゾナレ・グループ（通称ゼラニウム）のことを総称して呼ぶことも多い．

磯野（2007a）がまとめた『明治前園芸植物渡来年表』によると，ゼラニウムの渡来年あるいは記載年を示す最も古い資料は『新渡花葉図譜』であることから，まず国立国会図書館蔵の本資料を確認した．

『新渡花葉図譜』は，尾張の渡辺又日庵（ゆうじつあん）が天保末年（1843-1844）から明治初年（1867）まで書き続けた画集を，大正3年（1914）に伊藤圭介の孫伊藤篤太郎が母の小春（圭介の娘）に模写させた写本で，大部分の植物が幕末期の渡来植物であり，描かれた植物の大半に渡来年や尾張にどこから何年に持ちこまれたかなどが注記されている（磯野，2007b）．この『新渡花葉図譜』の坤巻の中に，赤花のゼラニウムの図と，

図 1. 天竺蜀葵.『新渡花葉図譜』坤 11. 国立国会図書館蔵.
(http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2558210)

図 2. 天竺ノ花アフヒ.『新渡花葉図譜』坤 12. 国立国会図書館蔵.
(http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2558210)

図 3. 菊葉天竺葵.『新渡花葉図譜』坤 32. 国立国会図書館蔵.
(http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2558210)

天竺蜀葵ト云花戸ノ名
元治元申子年六月末池田ヨリ
来ル何国ノ産タルヤ未知

という注記を確認した（図 1）．すなわち，元治元年（1864）6 月に天竺蜀葵が尾張に入ったことが明らかになった．これは尾張に入った記録であるため，日本にはそれよりも前に渡来していたということになろう．池田とは現在の大阪府池田市周辺のことで，江戸時代から現代に至るまで種苗商が多い地域である．なお，「花戸名」とは植木屋である花戸（かこ）の間で使う名前であり，中でも舶来の園芸植物に当ててつけられた名前が多い（平野，2006）．

本図譜には，この天竺蜀葵のほか，天竺ノ花アフヒと称される白花で葉に輪紋がある種の植物図もあった（図 2）．渡来年は記されていなかったが，先の天竺蜀葵に続いて描かれており，本図譜はほぼ年代順に配列していることから，天竺ノ花アフヒも元治元年（1864）に尾張に入ったと推察される．さらに，慶応 2 年（1866）に菊葉天竺葵が横浜に渡来し，尾張に入ったことも記されていた（図 3）．菊葉天竺葵はゾナレ・グループではなく，ニオイゼラニウムである *P. radens*（和名キクバテンジクアオイ．牧野，1908）の系統に似る．磯野（2007a）は，図 1 の天竺蜀葵をテンジクアオイ，図 2 の天竺ノ花アフヒをモンテンジクアオイと表記しているが，*P. inquinans* の和名としてのテンジクアオイと，*P. zonale* の和名としてのモンテンジクアオイのことを指しているのではなく，単に葉に紋のないゼラニウムと葉に紋のあるゼラニウムという意味で表記したものと思われる．後述するように，この時期にはすでにヨーロッパで交配育種が盛んに行われているため，日本に入ったものが栽培品種であるか，あるいは野生種であるかを，この植物図から判断することはできなかった．

幕末から明治時代にかけて活躍した江戸の植木屋に柏木吉三郎（1799 ～没年不詳）がいる（平野，2006）．柏木は，植物の栽培技術に長けるばかりでなく，多くの著作，画稿，写本を残している．代表著書である『本草書残欠』（全 27 冊；東京国立博物館蔵）を調べたところ，第 24 冊と第 25 冊に覚書程度に描かれたゼラニウムのスケッチとその傍らに次のような注記があった（図 4）．

天竺■　洋名ジョレー子ー
花極朱紅也
此花元治二年始て
横濱に来る

■は判読不能箇所

本資料の「元治 2 年（1865）に横浜に来る」という記述と，先述の『新渡花葉図譜』における「元治元年（1864）に尾張に来る」という記述から，ゼラニウムは安政 6 年（1859）における横浜などの開港後まもなく渡来したものと推察される．

なお，植物学者牧野富太郎（1862 ～ 1957）が収集していた植物画の中からも，柏木の描いた白花のゼラニウムの画が見つかっている（図 5）．

次に，幕末期の渡来植物の資料として代表的な『遠

図 4. 柏木吉三郎によるゼラニウムのスケッチ.『本草書残欠』第 24 冊. 東京国立博物館蔵. Image : TNM Image Archives.

図 5. 柏木吉三郎の描いた白花天竺葵. 個人蔵.

西舶上画譜』(東京国立博物館蔵) を調べた. 本画譜は, 馬場大助 (1785 ～ 1868. 名は克昌, 通称は大助, 字は仲達(ちゅうたつ), 花苑名は資生圃) の著で, 書名のとおり, 遠い西洋から船で運ばれてきた植物図譜であり, 化政年間 (1804 ～ 1830) から亡くなる明治元年 (1868) までに渡来した外国産の植物の舶載記録が多く記されている (佐々木, 1986 ; 上野, 1987). 馬場は江戸の旗本, かつ赭鞭会(しゃべんかい)の同人であり, オランダ船をはじめ, アメリカや中国などから, 種々の種子やさく葉が彼の手許に集まった. なお, 赭鞭会とは, 富山藩第 10 代藩主前田利保の主唱で結成された本草研究会であり, 博物好きの大名や旗本で構成され, 主な活動期は天保年間であった.

本画譜は, 安政 2 年 (1855) に書かれた序文をもつ全 10 冊 540 丁からなる稿本であり, 巻 6 に赤花のゼラニウムとみられる植物画が描かれていた (図 6). それには,

Scarlet　Geranium
シコラ　ジャメ子
葉ハ菊ニ似テ互生シ草茎太ク枝毎ニ三月花ヲ開ク枝ニ簇生シテ形サクラ屮ノ如キ深紅ノ花ヲ開ク此花二色アリト云

という記文が添えられていた.「この花二色あり」というのは, 前出の『新渡花葉図譜』でもみられたように, 当時, 白花があることを馬場は知っていたからであろう.

木村 (1989) は, 馬場が初めてゼラニウムを栽培したと述べているが, その根拠となる記述は見つからなかった. 本図には, 渡来年や渡来地は記されておらず, またその図が植物の真写なのかあるいは植物画の写生なのか, さらには馬場自身が描いたものかどうかも明らかではない. ただ, 本図に添えられている文字は馬場の筆跡と言われており, この文章における植物の詳細な内容からすると, 馬場は実際にゼラニウムを観察しているものと推察された.

本節より, ゼラニウムは元治元年の頃に渡来し, 尾張や横浜などで, 赤花や白花が栽培されていたことが明らかになった.

(2) ゼラニウムの呼称

伊藤圭介 (1803 ～ 1901)・篤太郎 (1866 ～ 1941) 編の『植物図説雑纂』(国立国会図書館蔵) は, 日本産と渡来の植物について, 古来の和漢文献や写生図, 印葉図 (葉や花, 果実, 根などの拓本), 押花, 一枚図, 小冊子などを多く収録した全 254 冊からなる資料集である. この冊 176 に, 約 30 丁にわたり, ペラルゴニウム属の数多くの野生種および栽培品種について, 写生図や印葉図, 日本での名称や扱われ方などが記載されていた. その中には前出の『遠西舶上画譜』で描かれていた植物画と酷似したものもあり,「**Scarlet geranium　シコラ ジャメ子**」,「**二色**」と記されていたことから,『遠西舶上画譜』の写生か, あるいは両者共に, 別に存在する植物画をもとに写したものではないかと推察された (図 7).

図 6. シコラ　ジャメネ.『遠西船上画譜』巻 6. 東京国立博物館蔵.（http://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/C0026193）

図 7. シコラ　ジャメネ.『植物図説雑纂』冊 176. 国立国会図書館蔵.（http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2571125）

また，写生図だけでなく，「ヤエノテンジクアフヒ」，「ツルテンジクアフヒ」，「ニホヒペラルゴニウム」，「テンジクアフヒ」と称して，種々の印葉図が収録されていたことから，本資料がいつ編纂されたかの詳細は不明であるが，圭介らのもとに，ペラルゴニウム属の数々の野生種および栽培品種が入っていたことが確認された．

ところで，本資料の中で，伊藤圭介らはペラルゴニウム属のいくつかの種に対して，「テンジクアフヒ」，「オランダアフヒ」，「ツルテンジクアフヒ」などの呼び方を用いていた（図 8）．テンジクアフヒとオランダアフヒをどのように使い分けていたかは読み解けなかったが，それらの植物画を見ると，同じタイプのゼラニウム（ゾナレ・グループ）のように思われた．当時，ゼラニウムがテンジクアフヒと呼ばれていたことは周知であるが，圭介らがオランダアフヒとも呼んでいたことは，本植物がオランダからの舶来であることを意味しているのであろうか．あるいは，「テンジク」がインドではなく「異国の」という意味の接頭辞であったように，「オランダ」も鎖国が長かった日本にとって，単なる「異国の」という意味の接頭辞として当てられていたのかもしれない．

他方，前田次郎著の『園芸文庫』第九巻（1904）に，

天竺葵とは古へ此花の蘭國より渡りし・・・・・

と述べられていたことから，ゼラニウムはオランダから渡来したことが明らかになった．

なお，当時のゼラニウムの洋名には，これまでみてきたように，“ジョレーネー”，“ジャメネ”，あるいは『植物図説雑纂』でみられた“ジェレネム”などがあり，これは植木屋や伊藤圭介らが交流のあった異人の Geranium の発音を聞き取ってそう当てたのであろう．多少差異はあるものの，当時の呼称を知ることができた．

ところで，春山（1970）は，テンジクアオイとい

図 8. テンジクアフヒと阿蘭陀アフヒの呼称．朱筆の「山本渓愚図」は圭介が書いたもので，出典を示している．『植物図説雑纂』冊 176. 国立国会図書館蔵.（http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2571125）

図 9. ジョレーネー.『倭種洋名鑑』乾巻. 東京国立博物館蔵. Image : TNM Image Archives.

図 10. ジョレーネー一種.『倭種洋名鑑』乾巻. 東京国立博物館蔵. Image : TNM Image Archives.

う名前について，次のように記している.

牧野博士は江戸末期に柏木吉三郎という物知りの植木屋がこの花のことを書いているからおそらく植木屋が考え出した名前だっただろうといっている.

この根拠となる資料が，柏木吉三郎が写生して編集した『倭種洋名鑑』乾巻（東京国立博物館蔵）で見つかった．ゼラニウムの彩色図が 2 枚と，次のような注記があった（図 9，図 10）.

花戸　天竺あふい　又天人阿ふい共云

これより，植木屋（花戸）がテンジクアオイと命名したことが分かった．柏木はいくつかの舶来植物に対して命名をしており，他の資料でも自らが名づけた場合にはそのことを明記しているが，ここでは柏木がテンジクアオイと命名したとは記されていなかったことから，別の植木屋が命名したのであろう．前出の『新渡花葉図譜』に，すでに「**天竺蜀葵ト云花戸ノ名**」と書かれていたように，当時は本草学者よりも早く植木屋が栽培したり，命名したりすることが多かった.

さらに，この『倭種洋名鑑』におけるゼラニウムの画の傍らには，「**大輪の者極朱紅の花早春より咲・・・**」など，柏木が実際に栽培して得たと思われる情報も書き込まれていた（図 10）.

(3) ゼラニウムの普及

安政 6 年（1859）の開港後，欧米の園芸植物が大量に入ってくるが，ゼラニウムは渡来当初，日本人の嗜好に合わず，また日本では盆栽が流行していたために花物は受け入れられなかった（前田，1904）．明治初期は主に横浜の外国人商人によって，日本に居留する外国人のためにゼラニウムなど種々の花卉類が輸入され，栽培された（横浜市，1933）．日本人が後に盆栽に飽きて花物を好むようになると，西洋花卉が盛んに輸入されてゼラニウムも普及していき（前田，1904），明治 4 年に横浜の山手公園で開催された 2 回のフラワーショウでは，日本のガーデナーからゼラニウムやユリ，アジサイなどが出展された，とジャパン・ウィークリー・メール紙は記録している（中野編，2005）.

明治 4 年には，すでに小石川薬園（現：小石川植物園）においてもテンジクアオイを栽培していた（大場，1996）．ゼラニウムは葉に特有の臭いを有するため，薬用として導入されたのかもしれない．また，明治 6 年における開拓使の第一号官園の西洋花草種子定価に，天竺葵の紅白本紅と淡紅がそれぞれ 1 株 2 銭より 5 銭までと記されており，浸透の早さに驚かされる.

伴田（1931）によると，日本に初めて入ってきた当時のゼラニウムは，赤系統の一重咲きと八重咲きのあまり花の美しいものではなかったが，明治 40 年前後になると，フランス，イギリス，ドイツ等の諸国から優良種が盛んに輸入され，大正時代になるとアメリカ種が少量輸入されるようになった.

ルイス・ボーマー（William George Louis Bernhard Boehmer, 1843～1896）は，明治4年に北海道開拓使の園芸技師として来日したドイツ人で，その任務が終わると，明治15年に横浜に移り住み，ボーマー商会を設立して園芸植物の輸出入貿易を行った（横浜植木株式会社編，1993）．ボイラーを備えた100坪近い温室では，ゼラニウムや球根類，洋ラン類が栽培された．

その後，ボーマー商会に次いでほかの外国人商人も洋種植物の輸入を始めた．明治23年になると，ボーマー商会で仕入主任をしていた鈴木卯兵衛が植木屋を集め，日本人として初めて，植物の輸出入貿易を行う有限会社横浜植木商会（現：横浜植木株式会社）を設立した（横浜植木株式会社編，1993）．横浜植木商会がゼラニウムを含む洋種植物の輸入に力を入れ始めたのは明治20年代の終わり頃からで，明治40年代に入るとますます輸入業務が盛んになり，今日国内で見られる西洋花卉の大半のものがその時代に輸入された．さらに，新たに内国部という部署が立ち上げられ，国内向けの定価表が発行された．定価表は販売用カタログの役割を担っており，多くの品種を掲載し，特に注目している植物には美しい色彩画が付けられた．定価表は後に園芸要覧と呼ばれた．

横浜植木株式会社の現存する最古の定価表は明治41年度のもので，それには「ゼラニヤム」，「蔓性ゼラニヤム」，「麝香（じゃこう）ゼラニヤム」，「斑入葉ゼラニヤム」が15銭～1円で扱われていた．明治42年度の定価表には，ゼラニウムの多色刷り石版画も掲載され（図11），力を入れていた植物であったと推察される．なお，横浜植木株式会社編『園芸植物図譜』第九輯（1914）によると，「明治41年に同社の鈴木濱吉がベルギーおよびイギリスの園芸市場においてゼラニウムを優れたものと認め持ち帰ったことにより，名前が知れ渡った」とあった．

図11．ゼラニウムの多色刷り石版画．明治42年度横浜植木株式会社内国部定価表．

ほかに，横浜植木商会から10年ほど遅れて開業した東京興農園（東京赤坂）も園芸植物や野菜種苗を扱い，明治34年のカタログ『興農雑誌』に「ジエレニアム」が1株10～20銭で販売されていた．同じく明治34年の東京三田育種場のカタログ『明治農報』でも，1株15銭で扱われていた．

以上のように，多くの国内の種苗商によって，明治中期から日本人向けの輸入が本格化して全国に広がっていき，郵便制度と鉄道による遠距離輸送体制が整った明治後期になると，アメリカ式の通信販売に倣ったカタログなどで盛んに取り扱われるようになっていった．

第2章．変わり葉ゼラニウムの導入と流行の歴史

変わり葉ゼラニウムとは，ゼラニウムの中で，葉の斑模様や形，質感などが特異的に変化した品種群を指す．本章では，古い園芸書や銘鑑などの資料調査，および旭植物園の加藤政治から得た情報をもとに，変わり葉ゼラニウムの日本への導入と流行の歴史についてまとめた．

(1) 変わり葉ゼラニウムのヨーロッパでの育種

伊藤圭介・篤太郎編の『植物図説雑纂』にはペラルゴニウム属の種々の原種および栽培品種に関する情報が数多く集められ，その一箇所に，

オランダアフヒノ図　但葉紅斑アリ

Pelargonium zonale mrs pollock トアリ

という記文と，ごく簡単なスケッチが載っていた（図12）．そこで‘Mrs. Pollock’について別に調べたところ，本品種は1858年にイギリスのPeter Grieveが作出した有名な変わり葉ゼラニウムであり，楓葉に黄色の覆輪と紅の蛇の目が入る（Grieve, 1868；図13）．圭介らはこれをヨーロッパの花の図譜から写しており，当時日本に輸入されていたかどうかは不明であるが，彼らがこのような葉の美しいゼラニウムに着目していたということは興味深い．

葉芸を楽しむ文化は日本で生まれたというイメージを抱きがちであるが，変わり葉ゼラニウムはもともと日本で改良されたものではなく，花を観賞する

図 12. オランダアフヒの図 Pelargonium zonale mrs pollock. 伊藤圭介らによるスケッチ.『植物図説雑纂』冊 176. 国立国会図書館蔵.
(http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2571125)

図 13. *Pelargonium* 'Mrs. Pollock'.
写真提供：NHK 出版『趣味の園芸』.

ゼラニウムと同様，海外からの輸入がはじまりであった（伴田，1931）.

原産地の南アフリカからペラルゴニウム属の野生種を最も早く導入した国はイギリスで，1710 年に *P. zonale*，1714 年に *P. inquinans* が輸入されると，1800 年頃から交配育種が行われた．花の改良の一方で，1850 年代半ばからは，葉を観賞する品種の育種もすすめられた（Grieve, 1868）．それら品種は Tricolour pelargonium と称され，1875 年までの間に多くの品種が誕生した（Clifford, 1958）．1850 年にイギリスの Kinghorn によって作出された 'Attraction' が最初の白覆輪葉の品種として記録されている．黄覆輪葉の最初の品種 'Golden Chain' の誕生については，明らかになっていない点がいくつかあるものの，1820 年頃に，*P. inquinans* の枝変わりによって生まれたという説が有力である（Grieve, 1868）．前述の 'Mrs. Pollock' は，'Golden Chain' を使った交配の子孫に当たる．さらに 1860 年頃には，黄覆輪葉の品種と普通の緑葉品種の交配により銅葉の個体（Bronze Zonal）が生まれることが明らかにされ，これは Tricolour 種よりも生育旺盛で，花壇植物として高く評価された．また，カラーリーフプランツながら花に対する改良も加えられ，明るい色の葉を持つ八重花の品種が誕生した．

19 世紀後半の欧米の種苗カタログを調べると，変わり葉ゼラニウムの品種が多数掲載され，時に多彩な葉が挿絵になっていることがあった．植物の解説には，それらがボーダー花壇を彩る素材やハンギングバスケットの素材になると紹介されていた．

(2) 第一次高揚期（大正 3 ～ 5 年）

石井（1925）は，『石井園芸実際叢書』第一編・西洋草花の作り方の中で，次のように紹介している．

麗葉種は一時は投機的の流行を来たしまして，新潟県下の如きは警察権を以てこれを制した位でありました．日本でこの麗葉種の輸入を逸早く企てたのは，小田原の辻村農園で，巨資を投じて佛国の専門家から毎年多数の苗を取寄せて居りました．葉の色彩には五色葉などといつて実に不思議に思はるる程の変つた色が織出されて居ります．只今ではこれに日本式の名稱を興へて，特殊な人々の娯楽に供されて居ります．

これに紹介される小田原の辻村農園とは，明治 34 年頃に創立された農園で，欧米から新しい種苗を輸入し，球根や種苗の生産とともに通信販売も始めた，まさに西洋草花園芸の開拓者であった（大場，1962；松浦，1994）．辻村農園で明治末から大正初期に特に数多く作られていた鉢花の一つにゼラニウムがあり，フランスとドイツからの輸入種が多く，その規模は日本一であった（大場，1962）．辻村農園の『園芸植物目録』第一輯（年代不詳）には，紫陽花，薔薇に並んで天竺葵が掲載され，「フランスにおける天竺葵の専門家ローゼン，ブーシャルラー氏より多数の新品を輸入しここに特価をもって販売する」と紹介されている．現在ゼラニウムと通称される四季咲天竺葵，変わり葉ゼラニウムと通称され

表 1. 辻村農園『園芸植物目録』第一輯（年代不詳）に掲載された麗葉天竺葵

品名	原名	解説	価格
中白		在来種緑葉白斑、一輪小輪中繖赤花	15 銭
白絞		在来種緑葉白絞	15 銭
蛇ノ目		在来種緑葉褐色蛇ノ目	15 銭
ブール、ド、ネージュ	Boule de Neige	緑葉白覆輪	
カロリンヌ、シュミット	Caroline Schmitt[z]	緑葉白覆輪　八重咲赤花	
フレーク、オブ、ネーテュア	Freak of Nature	緑葉白覆輪	
ハッピー、ソート	Happy Thought	緑葉底黄一重中輪洋紅色	
レディー、オヴ、シャルロット	Lady of Challot	緑葉白覆輪緋色蛇ノ目八重咲桃色	5 円
ミスター、ストラング	Mr. Strang	緑葉金覆輪紫蛇ノ目八重咲赤花	3 円
ミシス、パーカー	Mrs. Parker	緑葉銀覆輪　二重　中繖　櫻色	3 円
ミシス、ピンク	Mrs. Pink	緑葉銀覆輪、白花	
ミシス、ポック	Mrs. Pollock	緑葉金覆輪蛇ノ目	5 円
ピーター、グリーヴ	Peter Grieve	緑葉白覆輪時として純白葉あり	
アーサー、エッチ、ヴィリス	Arthur H Villis[y]	葉面金黄色樺蛇の目	
ブラック、ヴェスヴュース	Black Vesvius	葉面紫色黒蛇の目　一重咲緋色	5 円
カナリー、バード	Canary Bird	黄地緑色絞リ　一重咲朱色	
セリーズ	Cerise	黄地緑色覆輪赤蛇の目	3 円
コリンヌ	Corinne	黄地赤蛇の目　八重咲大輪緋色	
ディスティレクシォン	Distinction	小葉濃緑色に黒色細環蛇の目頗美	5 円
エクスキシット	Exquisite	黄地緑色細覆輪濃紫色蛇の目一重咲朱色	
ジュビレー	Jubilee	前種に似て花色白地に赤ボカシ	
ランフェル	LEnfer[x]	七十号に以て小葉一重咲濃緋丸咲	5 円
エム、デロー	M. Delaux	黄地紫蛇の目　一重咲桃淡色	
パッティー	Patty	緑葉紫蛇の目　一重咲緋色	
レギュラリティー	Regularity	黄地赤蛇の目　一重咲淡紅色	
リチャード、ソルントン	Richard Thornton	緑葉赤蛇の目　一重咲淡紅色	
サルモン、ブラン、ヴェスヴィウス	Salmon Blanc Vesvius[w]	小葉黒茶濃紫色蛇の目一重紅色	5 円
ホワイト、クレステッド、カナリー	White Crested Canary	緑葉赤蛇の目絞り　一重咲移り白	

品名および原名という項目名は記載のとおり.
『International Register and Checklist of Pelargonium Cultivars』(2008) では,
[z] Caroline Schmidt
[y] Arthur H. Willis
[x] L'Enfer
[w] Salmon Black Vesuvius

る麗葉天竺葵，ペラルゴニウムと通称される夏咲天竺葵，アイビーゼラニウムと通称される蔓性天竺葵，および変形天竺葵を含む約 280 品種が載っており，このうち麗葉天竺葵は 28 品種であった（表 1）．これには伊藤圭介らが『植物図説雑纂』で写生した 'Mrs. Pollock' もあった．

明治 42 年 (1909) に発行された鈴木千代吉著の『温室園芸法』には，天竺葵の美葉種 14 品種について，品種名のカタカナ表記とアルファベット表記，そしてその葉の形質が紹介されていた（表 2）．なお，これらの品種について，『International Register and Checklist of Pelargonium Cultivar』(British and European Geranium Society (ed.), 2008) で確認したところ，ほとんどが 19 世紀後半にイギリスで発表された品種であった．辻村農園の目録で紹介された品種とともに，これは日本に導入された初期の品種を知る貴重な資料である．

溝口（1980）は，変わり葉ゼラニウムは明治 20 年少し前くらいに渡来したと記述しているが，明治 40 年以前の目録や園芸書は乏しく，本研究では正確

表 2.『温室園芸法』（明治 42 年）に掲載された天竺葵美葉種

品種名		葉の模様
アダム、バッス	Adam Basss[z]	緑色地黄金環紋入り
ゴールデン、ブリリアンチシマム	Golden Brilliantissimum[y]	緑色地黄金環紋入り
マクベツス	Macbeth	緑色地黄金環紋入り
プリンス、オブ、ウェールス	Prince of Wales	緑色地黄金環紋入り
エムプレス、オブ、インヂア	Empress of India	緑地白色環紋入り
レヂー、ドッロシー、ネヴィル	Lady Dorothy Niville[x]	緑地白色環紋入り
プリンス、シルヴァーウィングス	Prince Silverwings	緑地白色環紋入り
ベスト、ブロンズ	Best Baonze	黄褐赤銅色斑入り
ブロンズ、クイン	Bronze Zueen[w]	黄褐赤銅色斑入り
ハー、マゼスチー	He Majesty[v]	黄褐赤銅色斑入り
ブラック、ベスビウス	Break Vesuvius[u]	黄褐赤銅色斑入り
マングルス、ヴァリエヂーテッド	Mangle's Variegated	緑色地白覆輪
フラワー、オブ、スプリング	Flower of Spring	緑色地白覆輪
ダンデー	Dandy	緑色地白覆輪

品種名は『温室園芸法』で掲載されたとおりに表記した.
『International Register and Checklist of Pelargonium Cultivars』(2008) では,
[z] Adam Bass
[y] Golden Brilliantisima
[x] Lady Dorothy Viville
[w] Bronze Queen
[v] Her Majesty
[u] Black Vesuvius

な導入時期の手がかりとなる資料を確認することはできなかった．しかし，横浜植木株式会社の明治 41 年の定価表や明治 42 年発行の『温室園芸法』，後述する資料などから，変わり葉ゼラニウムが明治 40 年代に注目されたことは明らかである．

濱島（1933）は『実際園芸』の中で，変わり葉ゼラニウムの人気について，次のように紹介している（要約）．

斑入葵が初めて人気が出たのは明治 42 年頃．サンゴ閣も，最初は根付きの苗を 20 ～ 30 銭くらいで売っていたのを，だんだん競い上がって，切枝で 3 ～ 4 円になっても望まれた．サンゴ閣，富士雪，越の誉，三光錦，王冠は，1 鉢 10 円くらいであれば飛ぶように売れた．その当時，太陽錦，地球錦，キリンなどが全盛で，500 円～ 800 円で売買された．

ちなみに，明治 42 年（1909）は，米 10kg が 87 銭という時代である．

また，片桐（1939）は『実際園芸』の中で，

斑入ゼラニュームの流行は大正 3，4 年頃，横浜植木株式会社で「二色光」，「神代」等の二色葉のものを米国から輸入紹介されたのが始まりで，一躍園芸界の人気を得て非常に高価で売買されたのである．

と紹介している．

当時，横浜植木株式会社はロンドンとニューヨークに支店を持ち，輸入を行っていた．明治 41 年度の国内向け定価表をみると，「斑入葉ゼラニヤム各種 25 銭」と記されていた．その後，大正元年度の定価表には，「斑入りゼラニユーム」として，例えば「白刻覆輪葉ニシテ花色赤八重・・・5 拾銭」というように，品種名はないものの，形質を表現して価格が示されるようになった．当時のゼラニウムはすべて輸入であり，花を観賞するゼラニウムには輸入されたときの品種名が記載されていたが，変わり葉ゼラニウムには記載されていなかった．花ゼラニウムには舶来のイメージを植え付けたかったのに対し，変わり葉ゼラニウムには，あえて輸入時の品種名を出さずに日本らしさを出したかったのであろう．さらに，大正 4 年度の定価表になると，「珊瑚閣」や「神代」などといった日本語の名前（以下，日本名と称す）に付け替えられた．大正 3 年（1914）における東京群馬横浜茨城埼玉岩城同好会の『葵銘鑑』に，「**五色葉改メ地球錦**」などと書かれていること

図 14. 大正 3 年になると，「五色葉改メ 地球錦」や「ジャコウ改メ 鳳凰錦」といったように日本名がつけられた．東京群馬横浜茨城埼玉岩城同好会の『葵銘鑑』(大正 3 年 6 月)．雑花園文庫蔵．

からも（図 14），この頃に多くの品種で日本名が付けられ，日本らしい植物として栽培が盛んになったと推察される．なお，以下の本文中，輸入品種に対して日本名がつけられた場合は‘ ’（一重引用符）で囲まず，日本で作出され命名された品種名の場合は‘ ’で囲み，両者を区別して表記した．

ここで，旭植物園 2 代目園主・加藤清（1907～1995）の残したメモによると，輸入時の品種名に付けられた日本名が明らかになっている品種は表 3 のとおりである．

表 3. 輸入時の名前(品種名)と日本で付け替えられた名前(日本名)

品種名	日本名
Sky of Italy	太陽錦
Mrs. Parker	神代
Freak of Nature	吹雪ノ松
Mme. Charellon[z]	松江錦
Happy Thought	谷間ノ雪
Mme. Languth	富士ノ雪
Grey Lady Plymouth	鳳凰錦[y]
La Elegante[z]	紅千鳥[y]
Silver S. A. Nutt	花美可登[x]

加藤清メモより

[z] 『International Register and Checklist of Pelargomium Cultivar』(2008) には，それぞれ‘Madame Salleron’，‘L' Elegante’ の品種名で登録されている．

[y] 鳳凰錦はニオイゼラニウム，紅千鳥はアイビーゼラニウムであるが，斑入葉を有したため，葉変葵銘鑑などで扱われていた．

[x] 加藤政治談

これをみると，日本名は輸入時の品種名を単に訳したものではなく，植物体のイメージからつけられているところが日本人らしい．日本名は，当時の横浜植木株式会社の社長，横浜市の京楽園の園主・片桐八郎（本名は六之祐），愛知県の三河旭園の園主・加藤栄一（本名は節五郎．のちの旭植物園）の 3 名によってつけられた（松本，1998；加藤政治談，2012）．なお，本調査では，加藤清のメモでしか，輸入時の品種名と日本名を照合させる資料は見つけられなかったが，表 1 および表 2 に示したような多くの輸入品種に日本名がつけられ，普及していったのである．

以上より，変わり葉ゼラニウムは，辻村農園や横浜植木株式会社など日本の大手種苗商によって欧米から輸入され，明治 42 年頃から人気が出始め，大正 3 年頃から日本名がつけられて大流行したことが明らかになった．

ところで，横浜植木株式会社が大正 4 年（1915）に発行した『園芸植物図譜・斑入葉葵の巻』には，美しい多色刷り図譜（図 15）とともに次のような解説があった（要約）．

大正 3 年の春の終わりに，越後小須戸地方の植木屋が変わり葉ゼラニウムに着目し，種々の珍品を発表して流行のさきがけを築いた．

また，これと同様の内容であるが，満志生（1916）も『園芸之友』の中で，次のように述べている（原文のまま，ただし誤字を訂正）．

一昨年（大正三年）の春の末の事で有つた，越後小須戸地方の園芸家及植木仲間は急に旅装を整へて東京，横浜，大阪各地に走つて斑入葉ゼラニウムの買占めに掛つた．其当時最も嘱目した種類は五色葉と称したもので（現今は地球錦と称す）花の余り華美で無い点から，一般花園業者に顧みられなかつた種類で有った，従て栽培さるる数も少なく，短時日間に大部分は小須戸に集め得た．而して此五色葉が小須戸に集まり終つた頃には，京浜地方の相場は，此品の三寸鉢仕立つ物一鉢五円を唱ふる様になつたので，ゼラニウムの流行熱は公然と起つた．

これらのことから，輸入された変わり葉ゼラニウムは，京浜，大阪地方で先に栽培されていたが，それを越後小須戸地域の植木屋が着目し，流行を築いたことが明らかになった．その小須戸地域の植木屋については特定できなかったが，小須戸地域（現在の新潟県新潟市秋葉区）は当時日本を代表する花卉

図 15. 横浜植木株式会社編『園芸植物図譜・斑入葉葵の巻』(大正 4 年). 横浜植木株式会社蔵. 横浜開港資料館保管.
(A) 表紙. (B), (C) 流行のいきさつや品種の解説. (D)～(I) 品種の株姿と葉の特徴が紹介される.

生産地で，大正４年６月に越後小須戸同好会によって銘鑑も作られている．新潟県では特に，警察権を行使して投機的流行の鎮静化が図られるほど，熱狂的な人気があったことは，前出の『石井園芸実際叢書』（1925）の記載にあるとおりである．

また，より古い大正３年に，東京群馬横浜茨城埼玉岩城同好会による銘鑑があるほか，大正３～４年にはいくつかの地域で同好会が作られていたことを確認した．

横浜植木株式会社は，こういった需要の急増に伴い，大正３年に６品種，大正４年から５年にかけては20品種を輸入したと記録している（横浜植木株式会社編，1993）．大正３年頃に取り扱われた主な品種は，金月，黄金，神代，谷間の雪，金世界，三光錦，美可登錦，紅千鳥，麒麟などであった（満志生，1916）．大正３年の夏までは，新潟県小須戸地域および京阪，京浜地方の間での人気に留まっていたが，その秋から冬になると，三河地方，名古屋，徳島県へと流行し，次第に全国的に広がっていき，とてつもない値がついたという（横浜植木株式会社編，1915；満志生，1916）．流行の浮き沈みは激しく，大正４年春には小須戸地域の購買力の衰退と地球錦の品薄のために，ブームはいったん沈静化したが，大正４年４月に，大阪池田の植木屋が横浜に送った漣，真鶴，錦雛，濱千鳥，錦旗の珍品（いずれも横浜植木株式会社の輸入品）をきっかけに再びこの流行の熱は勢いを増していった．その一方で地球錦は注目されなくなるなど，人気の移り変わりは激しかった．大正５年頃は，鮮やかな紅斑のものが好まれて白斑のみのものは顧みられない様子であった．

前出の『園芸植物図譜・斑入葉葵の巻』には，次のようにも書かれている（要約）．

変わり葉ゼラニウムの流行はまだ最高潮に達したとはいえず，なぜならそれは海外より輸入されたものがほとんどであり，日本独自で枝変わりや実生による品種を作っていないからである．現在取扱われている変わり葉ゼラニウムの品種数は100に満たないが，将来は日本で改良された優れた品種が登場するだろう．

一方，満志生（1916）によると，‘鶴裳’，‘東洋錦’，‘御代錦’は輸入品種ではなく，日本で枝変わりにより作出されたもので，大正４年春頃から着目された．片桐（1939）も，大正５年に国内で‘立田錦’，‘御所錦’，‘昭和錦’などが発表されたと述べている．

以上より，第一次高揚期とみなされる大正３～５年は，輸入された品種を観賞するのが中心であったが，一部に国内で枝変わりから作出されたものもあったことが分かった．

ところで，加藤政治によると，横浜植木株式会社が輸入した品種は，当時の温室の管理を任されていた鈴木幸三郎（後に鈴花園を経営）が増殖し，変わり葉ゼラニウムに関して力を持っていた者たちに１鉢ずつ手渡された．その有力者とは，横浜市の京楽園・片桐八郎，愛知県の三河旭園・加藤栄一，静岡県の植木屋・松木（名は不明），沼津市の沼津農園・濱島松三郎，横浜市の藤澤花園・藤澤浅治郎，愛知県の橋本殖産園・橋本（名は不明）らで，本業界で幹部と呼ばれていた．彼らはそれを持ち帰り，栽培し増殖した（加藤政治談，2012）．

なお，横浜植木株式会社編の『園芸植物図譜・斑入葉葵の巻』（図15）および図16に示した『全国大流行葵見立鏡』をみると，当時，変わり葉ゼラニウムは，江戸園芸に代表される変化朝顔や万年青などと同様，飾り鉢にもこだわって観賞されていたことが分かる．もともとはヨーロッパで花壇に色を添えるカラーリーフプランツとして改良された植物が，海を渡り，日本人独自の美意識によって伝統園芸植物のように発展したといえよう．

図16．『全国大流行葵見立鏡』（年代不詳）．加藤政治蔵．

(3) 第二次高揚期（昭和２～４年）

濱島（1933）は『実際園芸』の中で次のように記している（要約）.

斑入葵の第２回目の大人気は昭和２年より始り昭和４年までと３年間続いた．昭和２年のはじめには，高いもので10円というものは御所錦くらいで，錦旗が２～３円，丹頂，錦鶴，日ノ丸，世界ノ図などで１～３円程度であったが，昭和３年には御所錦の2，３枚葉の出たものが200円に，錦旗，丹頂，錦鶴，日ノ丸，世界ノ図などは50～80円の高価なものになり，買い手市場というようなことがあった．その当時命名された千代田錦は，改名前は４～５円くらいであったが，昭和３年に切枝で150円となり，その時の最高値で1350円などという想像にも及ばないものがあった．御所錦も三河の大会において1000円で取引されたような状態で，その当時の相場は，１寸苗葉３枚物で，千代田錦および御所錦が250円，曠錦，羽衣，鶴掌および昭和錦などが70～100円くらい，丹頂，錦鶴および日ノ出鶴などが40～50円，錦旗が20円，大虹，帝錦，磯千鳥，都錦などが10円内外，ペラルゴニウムの斑入りである天晃，雷光，雪光などが40～50円でというところであった．その後，昭和５～７年には大変品種が変り，黒雲錦，紫宸殿，国宝錦などが人気の焦点となり，１寸内外の苗で100円から150円くらいで売買され，親木になると400円とさえいわれた．これらはわい性種である．

千代田錦が1,350円で取引された昭和３年（1928）は，米10kgが２円７銭という時代であった．

森口（1930）も『ゼラニュームと仙人掌』の中で，

斑入ゼラニユームは，ゼラニユームの中でも特殊なものだけに，一時は全国的に非常な高価を唱えられ，大々的に銘鑑まで作成された位で，一昨年（昭和４年）などはおそらく頂上でしたでしょう．

と記している．

また，横浜市の種苗商・横浜ガーデンが発行する種苗カタログ『ガーデンタイムス』をみると，大正13年から大正15年までは，斑入葉ゼラニウムとして品種名と定価が示されていたが，昭和２年から昭和４年になると「価格時々変動する」と書き加えられている．

以上のことから，大正３～５年のブームが去った後，昭和２～４年に再び火がつき，これを第二次高揚期と呼ぶことができよう．

明治後期から大正初期までの輸入品種は葉が柔らかくて大きく，薄葉系または大葉系と称される色彩豊かなものであり，時に枝変わりがでればそれを固定して発表していた．大正４年頃に，肉厚で小さい葉の黒雲龍，紫雲龍が輸入され，その後大正後期から昭和にかけては両品種を親とした交配による改良が次第に普及し，各地で一般の人たちが競って種子から新品種を作るようになった．矮性で，種々の色の模様を浮かせた小さい葉は，姿のバランスがよく，さながら松の盆栽のような印象を与えた．溝口（1980）は，黒雲龍および紫雲龍が輸入された時代を大正10年近く，あるいは昭和初期と述べているが，先述したように，黒雲龍はすでに大正４年の横浜植木株式会社刊行の図譜や定価表に記載があるほか，紫雲龍も大正４年における越後小須戸同好会の『葵変葉銘鑑』にすでに載っていたことから，両品種とも大正４年にはすでに輸入されていたことが明らかになった．

伴田（1931）は，次のように警鐘をも鳴らしている（要約）．

大正２，３年頃から大正４年にかけて，一時非常に流行した当時は，ようやく30種位しかなかったものが，昭和２年12月から，再び流行を見るに至って，諸方から新種が現はれてきた為，急に激増して，40品種あまり新しい品種が加えられたのである．しかし今度の流行は極く僅かな時日で，既に昭和３年５月には大暴落となって終ったのである．

（中略）

流行の最高潮期には１株何百円という意想外の値段で取引された例もあるが，一朝暴落が来ると，全く二足三文に捨て売りを余儀なくさせられることになってしまうので，一般に大量生産者は取扱うことがなく，斑入葉種を取扱う者は万年青とか常夏の様なものを扱う，いわゆる人気師または際物師と呼ばれて居る人達で，一般栽培家が，流行の最中流行熱に浮かされて，これに手を染めることは非常に危険なことである．

このように，当時は，留まらない価格の上昇と暴落を繰り返す，典型的なバブル現象の中にあったといえる．

(4) 同好会組織の設立と一般への浸透

大正から昭和初期にかけては，多くの地域で同好

会組織が増えた．小笠原左衛門尉亮軒および加藤政治所有の銘鑑だけでも，横浜をはじめ関東地方，伊勢崎（群馬県），越後（新潟県），駿府（静岡県），沼津（静岡県），三河（愛知県），香川地方のものを確認した．溝口（1980）もまた，横浜，伊勢崎，そして愛知県には尾張や三河，広島，神戸，静岡，香川，徳島にも 100 名前後の会員からなる同好会が組織されたと述べている．各地方の同好会などで独自の品種が発表され銘鑑が作られると，様々な品種が氾濫して混乱を来たす恐れがあるため，昭和 7 年（1932）には大日本葵協会が設立され，各地方の同好会が次第に統合されていった．

地方同好会や大日本葵協会の会合では，新品種や栽培技術が披露され，懸賞大会が開催されたり，銘鑑の番付が作られたりした（図 17，図 18）．地方の会合には大日本葵協会の幹部が出席することがあり，幹部とブローカーがこの番付や価格を左右していた．ブローカーは地方を行き来して，優れた品種を見出し，それを他の地方に紹介して普及させたり，高額で売買したりし，一層投機熱をあおった．銘鑑は地方へ配布され，現代のカタログの役目を果たしていた．地方の銘鑑にしか載らないような品種は「下草（したくさ）」と呼ばれ，安く取引されたが，多くの地方の銘鑑や大日本葵協会の銘鑑に載るような品種は幹部らが承認した品種として高価に取り扱われた．

愛知県と群馬県は特に生産が盛んであり，愛知県では三河旭園，および海部郡美和町の久米国太郎（1874 ～ 1954）による功績が大きかった（溝口，1980）．久米は，盆栽園芸を中心とした萬華園（まんかえん）を営んでいたが，大正初期から変わり葉ゼラニウムに魅せられてその育種に取り組み，‘千代田錦’や‘篠国’を作出した．‘千代田錦’は昭和 3 年に 1,350 円の高値で取引された品種で，久米は母屋と温室を新築し，さらには義娘の療養費もまかなったという．ただ，久米は幹部でなかったために，‘千代田錦’は横綱に長く留まることはなかった．番付には幹部の作為的な部分もあったようである．

群馬県伊勢崎市では伊勢崎市葵同好会が『変葉葵銘鑑』を出すなど，栽培が盛んであったが，中でも染物屋を営んでいた金井貞知（1901 ～没年不詳）の存在が大きかった．彼は後に埼玉県本庄市に移るが，そこでも変わり葉ゼラニウムの栽培を続け，昭和の園芸界をリードした雑誌『ガーデンライフ』（1970, 1972）でも取り上げられている．家業にちなんで命名した‘御染錦’は，錦旗の実生によって生まれた品種として有名である．

溝口（1980）によると，横浜植木株式会社が輸入した漣は昭和 7 年頃に枝 1 本 1,000 円で新潟へ引き取られ，静岡で作出された‘麗山錦’は 300 円で，昭和 10 年頃には普及種といわれる‘音羽錦’，‘羽衣の松’，‘常磐’，‘曙錦’が 10 ～ 30 円で取り引きされた．また，香川県高松市の花村薬局で作られた‘花村錦’や静岡市の松木に命名された‘静松錦’のように人名がつくものや各地の地名がつくものなど，数多くの品種が発表された．さらに，加藤政治によると，京都府からは栗田農園の栗田武夫により‘平安錦’が，長野県からは横森道二が中心となって，‘浅間錦’や‘千曲の輝’などが発表された．

このように，昭和に入った頃からは，一般の人たちも狂奔して交配し実生栽培をするようになった．

図 17．葵葉変美術懸賞連合大会での賞状（昭和 3 年，洋紙石版刷 39.5cm × 54.8cm）．雑花園文庫蔵．

図 18．伊勢崎園芸組合主催・第一回葵葉変懸賞大会での記念写真（昭和 2 年）．幹部らが前列中央に並ぶ．中央が三河旭園の加藤栄一．加藤政治蔵．

そして，園芸家（業者）たちは定期的にアマチュアの実生苗を見て回り，あるいは一般人から売り込みに来ることもあったが，将来有望と思われる苗は1本3～5円で買い取られ，フレームで育てられた（溝口，2004）．1～2年栽培しているうちに10～20本に1本くらいは優れた葉芸の出る品種が見つかり，それを幹部たちが番付の会合で紹介した．横綱になるような優良品は，「旦那衆」あるいは「お好き人」とか「お好き者」と呼ばれる金持ちのマニアのところに売られた．なお，万年青や細辛などでもみられるように，高級な植物の持ち運びには提籠（ていらん）と呼ばれる本来茶器を運ぶ竹の手提げ籠が使われた．売り歩く園芸家は提籠師と呼ばれ，この時代における伝統園芸植物の伝播で重要な役割を果たしている．高級でない品の場合は根を解いてミズゴケで巻き，それを新聞紙に包んで運んだ．戦後はこの提籠が闇屋の籠に変わっていった．

変わり葉ゼラニウムが投機の対象になって競売される中，三河旭園の2代目園主・加藤清は，幹部でありながら，本植物はもっと庶民にも広く普及させるべきであると考え，カタログを作成して一律の価格を提示しようとした．ところが，初代園主・加藤栄一は万年青の商売で成功していたこともあり，清の考えに猛反対であったという．だが，清は途中で幹部を辞め，昭和7年に三河旭園のカタログを創刊した．すると続いて，昭和8年には沼津市の沼津農園の濱島松三郎もカタログを発行した．沼津農園の昭和8年4月のカタログには，「高級品は時折定価の高下ありご紹介あれ」と注釈がついているものの，107品種の定価が示されている．

(5) 第三次高揚期（昭和14年頃）および戦後の衰退

小雅園主（1939）は『実際園芸』の中で，過去2回ほどの大流行ではないが，昭和14年（1939）頃にも第三次高揚期と呼べるほどの人気が出て，新旧の品種をあわせると約130品種に及んだと記している．当時，流行していた品種には，五色小葉系の‘錦山’，‘国宝錦’，‘金龍’，‘白龍錦’，‘錦麒麟’，‘明山錦’，‘黒雲錦’，‘金鱗’，‘玉鱗’，‘光山錦’および‘麒麟錦’，五色中葉系の‘宝山錦’および‘国光錦’，さらに五色葉ではないが葉芸の変わった‘羽衣錦’，‘羽衣の松’，‘千代田の松’，‘黒牡丹’および‘金華山’があった．

その後，戦争の影響により，変わり葉ゼラニウムの流行は次第に衰えていくことになる．ガラス温室は，上空の爆撃機から発見されやすいために壊さなければならず，特に関東地方ではゼラニウムの栽培を諦める者が多かった．

銘鑑の写真24に示す昭和33年（1958）の葉変葵銘鑑は，日本葵同好会の作成とあるが，実際には三河旭園の加藤清と群馬県に在住した金井貞知の2人によって，戦後衰退してしまった変わり葉ゼラニウムをもう一度流行させたいと期待して作成されたものであった．大日本葵協会は戦争により解散したため，2人で日本葵同好会を名乗ったという．加藤清は金井宅に赴いて現存する品種を確認し，沼津市の沼津農園・濱島松三郎の承認も得て，銘鑑の作成に取り組んだ．なお，本銘鑑は第4号とされるが，第1～3号は構想のみで印刷はされず，幻に終わっている．

しかしながら，戦後は，葉芸よりも花が豪華なゼラニウムに人気の焦点が移り，変わり葉ゼラニウムの栽培はほとんどみられなくなった．加藤清は日本五色葉葵同好会の名で第5号となる銘鑑の下書きを平成3年に残しているが，体調を崩し，下書きのままで終わった．

ここで，銘鑑の見方について触れる．同好会組織や時代によっても異なるが，相撲の番付表と同様，その時代の流行品種，人気番付を示し，稀貴品種ほど大きくて太い文字で書かれている．地方同好会の銘鑑の場合は，地元のアマチュアが作出した無名の品種が載ることも多いが，そのような品種ばかりになると銘鑑自体に格がつかないため，横綱には全国的に知名度のある品種を掲げ，無名品種は下段に小さな字で書かれた．大日本葵協会の銘鑑の場合は，全国的に名高い優良品が揃う．昭和33年の日本葵同好会の葉変葵銘鑑（銘鑑の写真24）を例にとると，もっとも高価な横綱に相当する品種は‘麒麟錦’であり，その下の‘明山錦’および‘羽衣錦’は横綱候補である．さらに，大関が右の‘麗山錦’，次いで左の‘秀峯錦’の順であり，それらの下にある品種が大関候補であると加藤政治は説く．この場合，東西の番付を示しているわけではないようである．また，中央の横に並び，古今稀貴品と書かれている‘春山’や‘錦玉麟’などは未発表であるが，いつか横綱にしたいような有望品種であったという．

(6) 現在

平成25年4月に，明治時代から斑入り植物を専門に扱い，大正時代から変わり葉ゼラニウムを生産，

販売していた愛知県岡崎市の旭植物園が廃業した．これをもって，日本に輸入されてから100年以上続いてきた品種の保存・継承は幕を閉じたといえる．品種の本芸を正確に知り，栽培することができる者は皆無であろう．

現在，流通するゼラニウムは花を観賞する実生系品種がほとんどであり，変わり葉ゼラニウムの栽培自体が少量で，ごく一部の植物園や趣味愛好家が細々と楽しむ程度となっている．わずかながら変わり葉ゼラニウムが流通する場合でも，品種名が変えられていることがある．一般に，多くの観賞植物において，シリーズ化して販売する戦略がとられており，変わり葉ゼラニウムも，例えば「武将シリーズ」と称して，真鶴や‘光山錦’などがそれぞれ「信長」や「政宗」などと呼ばれ，セット苗として組まれていることがある．そのほか，ファンシーリーフゼラニウムとして漠然と扱われる，あるいは元の名前である英名やニックネームで販売されることも多く，かつて流行した日本名の品種と照合させることは難しい．

もともと枝変わりが発生しやすい性質があるため，本来とは異なる特性が発現した個体をその品種名で呼び続けている場合や，あるいは経済的な理由から，丈夫で繁殖しやすい個体を選抜して生産している場合も多くみられる．何より，本芸を知らない者や品種の価値にこだわらない者が栽培していることも大きな問題である．

変わり葉ゼラニウムは，他の伝統園芸植物にもよくみられるように，極度に変化した葉の特徴に価値を見出して生まれた品種群であるため，虚弱な性質のものが多く，その保存には高度な技術と手間を要する．常に，品種の形質特性を明確にし，正しい形質を受け継いだ部位のみを維持していく必要がある．

第3章．変わり葉ゼラニウムの品種に関する情報

伴田（1924）は，変わり葉ゼラニウムの葉を次の7種類に大別し，このうち，7に記載したものを五色葉と呼び，最も進歩した斑入葉であると述べた．

1. 緑色葉に白色の斑入
2. 緑色葉に茶褐色の斑入
3. 黄色葉
4. 黄色葉に緑色斑入
5. 黄色葉に茶褐色斑入
6. 緑色葉に黄色の斑入
7. 緑色葉に黒緑色褐色白色，赤色，黄色の斑入

表4では，主に大正および昭和時代の種々の雑誌や書物，カタログや銘鑑，加藤清の残したメモなどに基づき，掲載のあった変わり葉ゼラニウムの品種を一覧にまとめた．ここでは，通称ペラルゴニウム，アイビーゼラニウムおよびニオイゼラニウムの斑入り品種も，当時，同様に珍重されていたことから，この表に含めることとした．なお，古い時代であるため，異体字や旧字体などの文字がみられたが，ここでは活字化にあたり，新字体に改めた．品種名の読み方が分からないものも多く，加藤政治に確認したもの以外は，あり得る読み方を推測して加えた．その場合，重複する一方を読みの欄で斜体表記し，備考欄で「〇〇を見よ」と注釈している．また，発表時期に〇年以前と示したのは，文献年代から推測したものである．さらに，作出者と命名者を別に設けたのは，当時は作出者が命名したとは限らず，幹部やブローカーが命名することが多かったためである．

広島市植物公園において栽培したことのある品種の写真をまとめた．変わり葉ゼラニウムには，低温期に葉の赤みが増して美しくなり，夏とは大きく異なった葉色を示す品種がある．すなわち上記7(伴田，1924）に示す五色葉が最も進歩した斑入葉といわれる所以であろう．そこで，もっとも特徴を表現する時期の葉（本芸）を中心に載せるとともに，特に季節変化する品種については夏葉と冬葉を紹介することとした．

表4に示した品種一覧をみると，同じ時代にすべてが存在したわけではないが，総計300を超える品種が，輸入，枝変わりおよび交配育種によって生まれていたことが明らかになった．

また，現在はすでに失われたとされる品種が実際にどのような形質であったか，あるいは現存する品種であっても当時栽培されていた同名の品種と同一であるのかを確認することは，これまで困難であったが，本調査で，カタログや雑誌の記載などを一つずつ拾い出すとともに，旭植物園の加藤政治に照会したことにより，それぞれを比較することができた．その結果，当園の保有株については，約50品種が本芸を維持した状態であることを確認した．一方で，たとえば，‘姫千鳥’のように，当園が現在栽培している品種と，昭和初期における同名の品種では異なる場合も認められた．

表4. 変わり葉ゼラニウムの品種一覧

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
あいこくでん	愛国殿		昭和17年以前					23
あけぼの	曙		大正4年以前			小葉, 曙斑		2, 3, 6, 22, 24
あけぼのにしき	曙錦		昭和2年			葉形と葉色は変化し, 楓葉や丸葉や銀杏葉, 青葉や白葉に。時に淡紅の蛇の目。夏は散り斑も出る。花桃大輪		7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 32, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 59, 70, 73
あさひづる	旭鶴		昭和7年以前					11, 20
あさひにしき	朝日錦		大正4年以前			大葉, 青緑地に黄白の大中透かし斑, 朱紅の太い蛇の目, 花一重大輪多花性		3, 13, 16, 17, 19, 59
あさひのまい	旭之舞, 旭ノ舞, 旭の舞		大正4年以前			緑地に黒の蛇の目, 葉裏赤白色		3, 4, 5, 8, 9, 10, 12, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 57
あさまにしき	浅間錦	○	昭和33年以前	長野県		大葉, 五色葉, クリーム地に白の太覆輪, 濃桃紅の太い蛇の目		24, 61, 80, 81
あずまにしき	東錦		昭和4年	沼津市の濱島松三郎	沼津市の濱島松三郎	中型種, 丸形の五色葉, 緑地に茶褐色と薄黄の大覆輪, 茶褐色と紅の蛇の目	錦旗の実生	13, 14, 16, 17, 18, 20, 56, 75
あやきぬ	綾衣						「あやごろも」を見よ	
あやごろも	綾衣		昭和14年頃			太い蛇の目		76
ありあけ	有明		大正4年以前					3, 6
いそちどり	磯千鳥	○	大正4年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	大型変性, 楓葉, 緑地に黄白の散り斑, 淡紅の蛇の目, 花桃赤一重	'Alliance' の枝変わり	4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 38, 57, 58, 60, 61, 64, 65, 66, 69, 70, 73, 75, 81
いわとのまい	岩戸の舞, 岩戸ノ舞	○	昭和17年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	肉厚の小葉, 紺緑地にクリーム色の大覆輪, 紫紅の太い蛇の目		22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 78, 80, 81
うんじょうかん	雲上冠		昭和8年以前			薄肉丸形の大葉, 濃緑地にクリーム色の大覆輪, 紅の太い蛇の目	雲上錦の覆輪がより際立ったもの	16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 60, 75, 77
うんじょうにしき	雲上錦		昭和2年	群馬県	沼津市の田中	大形の五色葉, 緑地にクリーム色の大覆輪, 白と薄黄の大小刷目絞り, 紅黒褐色の太い蛇の目	実生	15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 56, 59, 75, 77
えいかん	栄冠	○	昭和17年以前	長野県佐久市	愛知県の旭植物園・加藤清	肉厚丸形の小葉, 青緑地に白覆輪, 桃紅の太い蛇の目, 花緋紅一重		22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
えびす	恵比寿		昭和7年頃		群馬県	小型種, 縞化, 茶地に薄黄の覆輪, 蛇の目		16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 56, 75, 77
えよごう	越誉剛		大正4年以前				書き間違い?	4
おうかん	王冠		明治			緑地に純白の大覆輪, 花赤一重		15, 16, 19, 21, 23, 24, 56, 69, 70, 73, 75
おうごん	黄金		大正3年以前			丸形の黄金葉, 花朱紅一重	ムジノ黄葉改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 35, 38, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 58, 69, 71, 72, 73
おうごんにしき	黄金錦		昭和8年以前			丸形の五色葉, 緑地に薄黄覆輪, 褐色と薄紅の蛇の目		16, 17, 56, 75
おうりんか	黄輪花		大正3年以前			切葉, 黄地に赤褐色の蛇の目, 花緋紅八重大輪	三色錦の花変り改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 7, 8, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 67, 69, 70, 73, 75
おおとり	鳳	○	昭和8年以前			黄白の大覆輪, 黒紅の太い蛇の目		16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 81
おおにじ	大虹	○	大正4年以前	横浜市	横浜市の京楽園・片桐八郎	丸形の大葉, 五色葉, 濃緑地にクリーム色の覆輪, 紺紺の太い蛇の目, 花緋一重大輪		4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 32, 33, 34, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 80, 81
おおべに	大紅		昭和8年以前			五色葉, 緑地に橙覆輪, 濃淡紅の蛇の目		56
おそめにしき	御染錦		昭和4年	伊勢崎市の金井貞知	沼津葵大会会場にて	大型種, 肉厚丸形の五色葉, 濃緑地に紅と黄の刷毛目模, 時に薄黄の大覆輪, 褐色の太い蛇の目	錦旗の実生	16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 56, 59, 75, 77
おとひめ	乙姫		大正4年以前			楓形の小葉, 黒緑地に橙黄の糸覆輪, 紺の蛇の目, 花小輪	麒麟女改(3), 一名 麒麟女(67)	3, 4, 5, 8, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 27, 56, 61, 67, 69, 70, 73, 75
おとわにしき	音羽錦	○	昭和5年	高松市の花村	静岡県の松木	大型種, 薄肉丸形の大葉, 五色葉, 淡黄地にクリーム色の覆輪, 紅の蛇の目, 全体に黄色味を帯びる	三光之誉と錦鶴の交配	16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 56, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 75, 77, 80, 81
おむろ	御室		平成10年以前	京都府の栗田農園・栗田武夫		厚葉, 濃緑葉に黒の細い蛇の目, 花紫紅大輪多花性	塚本(1989)によると「みむろ」	79
かくい	鶴衣		昭和5年以前			白と桃の斑入り, 桃, 茶, 黒などの覆輪	真鶴と羽衣の交配	70, 73
かくおう	鶴王		昭和4年頃			中型種, 蝶々葉または銀杏葉, 青緑地に白覆輪, 紅の蛇の目	錦鶴の枝変わり(縞化)	10, 11, 12, 15, 16, 17, 19, 21, 22, 23, 24, 59, 60, 75, 77
かくぎょく	鶴玉		昭和5年以前			縮緬葉		20, 70, 73
かくしょう	鶴掌		昭和5年以前			白地に青の大覆輪, 茎は白で紅に変化する	書き間違いで, 鶴裳と同じものと思われる	56, 69, 70, 73, 75
かくしょう	鶴裳, 鶴ノ裳		大正4年以前			厚葉, 白地に青の大覆輪, 白の中斑または散り斑, 蛇の目は濃紫の飛び斑状, 茎は白色で, 時に紅色に変化, 花紅紫一重	美可登錦(帝錦)の枝変わり。日本で初期に作出された品種	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 31, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 58, 59, 60, 68, 71, 74
かくれにしき	隠錦		大正13年以前					72
かくれみの	隠蓑, 隠れ蓑, 隠箕		大正4年以前			楓形の小葉, 黄地に紅茶の蛇の目, 花赤一重多花性		3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 67, 69, 73
かすがにしき	春日錦		昭和7年以前			楓葉, 青緑地に黄覆輪, 本紅の太い蛇の目		11, 13, 16, 17, 20, 33, 34, 59,

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
かてん	華典		昭和14年以前			肉厚丸葉, 濃緑地に濃黄大覆輪. 黄の刷毛目縞, 紅の太い蛇の目	黒雲龍の実生	76
かんこどり	寒古鳥		昭和5年以前			変性. 中斑の黒の星入り。茎は白色		70, 73
きほうかん	貴宝冠		昭和8年以前				黒雲の実生	17
きみがよ	君が代, 君ヶ代	○	昭和15年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	肉厚の小葉, 濃黄の大覆輪, 茶紅の蛇の目		21, 22, 23, 24, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 78, 80, 81
ぎょくかん	玉冠		大正4年以前			笠葉, 濃緑地に白覆輪。花赤一重		4, 5, 7, 8, 9, 10, 12, 14, 17, 18, 20, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 67
ぎょくりん	玉麟		昭和14年以前			五色葉		21, 22, 23, 77
きょっこう	旭晃		昭和7年以前				別名　金剛	13, 14
きょっこうでん	旭光殿		昭和62年以前			丸葉, 黄緑地に濃緑の覆輪, 白の筋縞が所々に入る, 茶紅の蛇の目		66
きょっこうにしき	旭光錦		昭和9年以前		目弊園	緑地に黄の中斑, 黒の蛇の目		58
きらのほまれ	吉良ノ誉		昭和8年以前					16
きりん	麒麟	○	明治38年頃？	輸入	横浜植木(株)	二色系, 肉厚丸葉, 青緑地に紺の糸蛇の目。花朱紅一重小輪		2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 32, 37, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 75, 80, 81
きりんにしき	麒麟錦		昭和14年以前	群馬県の尾内	愛知県の旭植物園・加藤清	小葉, 刷毛目縞と黄覆輪, 細い蛇の目	黒雲龍と千代田錦の交配にさらに麒麟を再交配。または麒麟と目丸の交配とも言われる。麒麟の紅斑	19, 20, 21, 22, 23, 24, 60, 76, 77, 80
きんえいざん	錦栄山	○	昭和18年	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	小型種。楓形の小葉, 切込み, 黒緑地に橙黄の大覆輪, 時に白の糸覆輪が半染めに入る, 紅の太い蛇の目	錦山の枝変わり。最上級の雲を示すときは, 1株から乙姫(または駒鳥)と錦獅子と, 輪み葉の3芸が同時に現れる	24, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81, 82
きんかく	金閣		昭和14年頃			丸形の大葉, 濃黄大覆輪, 濃紅の太い蛇の目		76
きんかく	錦鶴						「にしきづる」を見よ	
ぎんかく	銀閣		昭和14年以前			大葉, 五色葉, 純白大覆輪, 濃紅の太い蛇の目		21, 22, 23, 76
きんかざん	金華山		昭和14年以前	群馬県の尾内				19, 20, 21, 22, 23, 77
きんかにしき	金華錦		平成10年以前				黒雲龍系	80
きんかんむり	金冠		大正4年以前			丸葉, 乳白青地に白覆輪。花赤一重		3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 25, 26, 27, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 67, 69, 70, 71, 73, 75
きんき	錦旗	○	大正4年以前	輸入	横浜植木(株)	笠葉の五色葉, 青緑地に黄白の覆輪, 濃紅の太い蛇の目。花緋一重大輪	一名　日の司(67)	4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 32, 33, 34, 39, 41, 44, 46, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 78, 81
きんぎょく	錦玉		昭和4年以前			丸形の五色葉, 青緑地に黒と真紅の蛇の目。花緋一重		10, 14, 23, 69, 73
きんぎょくりん	錦玉麟		昭和33年以前					24
きんきりん	錦麒麟		昭和14年以前			五色葉		18, 19, 21, 77
きんくじゃく	金孔雀	○	昭和26年以前			肉厚丸葉, 黄の刷毛目斑, 時に黄覆輪, 金茶の蛇の目		24, 60, 61, 62, 63
きんけいちょう	金鶏鳥		昭和5年以前			黒青地に白覆輪。花黒紅八重大輪		70, 73
きんけいにしき	金鶏錦		昭和8年以前			純白の覆輪, 黄の飛び斑。花濃紅八重	花美可登の枝変わり	16, 19, 21, 24, 59, 61
きんげつ	金月	○	大正3年以前	輸入		二色系, 大葉。黄金地に緑の中斑。花朱紅一重中輪	黄斑の大覆輪中斑改メ(1), 黄葉改メ(2)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 36, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 72, 73, 75, 80, 81
きんこうでん	錦光殿		昭和33年以前					24
きんこうにしき	金晃錦, 金光錦	○	大正4年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	丸形の大葉, 緑地にクリーム色の大覆輪, 紅の太い蛇の目。花サーモン色		3, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 56, 69, 60, 61, 62, 63, 64, 66, 68, 81
きんざん	錦山	○	昭和10年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤栄一	小型種。肉厚楓形の小葉, 五色葉, 暗緑地に濃黄の刷毛目縞, 時に大覆輪, 紫紅の太い蛇の目。花本紅一重小輪	黒雲龍系の実生	18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 59, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 76, 77, 80, 81
ぎんざん	銀山		昭和15年以前					21, 22, 23
ぎんざんほんぶ	銀山本斑		昭和17年以前					23
きんし	金司						「きんつかさ」を見よ	
きんしかん	錦司冠, 金司冠		昭和7年以前			緑地に薄褐色の蛇の目, 中薄青		11, 13, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 56
きんじし	錦獅子	○	昭和33年以前			楓葉, 羽衣葉にも変化する。橙の細い覆輪, 黄の水玉斑	錦栄山の枝変わり	24, 62, 63, 78
きんしでん	錦紫殿		昭和33年以前			小型種。小葉, 白覆輪, 太蛇の目, 紫葉に変化する		24, 78, 80
きんしゅうざん	錦秋山	○	昭和17年		愛知県の旭植物園・加藤清	小型種。肉厚の小葉, 切込み, 鮮緑地にクリーム色の大覆輪と淡紅の極細輪, 秋冬に紅を帯びる		24, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 78, 80, 81
きんじょう	金城		昭和3年以前					8, 10, 12, 15
きんせいにしき	金星錦		昭和8年以前			平らな丸葉, 黄金色の大覆輪, 金桿の太い蛇の目		16, 17, 19, 59
きんせいほう	金星宝		大正4年以前					3

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者,作出地	命名者,命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
きんせかい	金世界	○	大正3年以前			二色系,丸葉,青緑地に黄の糸覆輪。花赤一重	細の黄フクリン改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 32, 36, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 75, 80, 81,
ぎんせかい	銀世界		大正3年以前			緑地に白黄の大覆輪	白フクリンノ一重改メ(1),一重富士改メ(2)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 35, 36, 38, 58
きんちょう	金蝶	○	大正4年以前			黄金地に青の大覆輪,淡紅の蛇の目	現存する金蝶はニオイゼラニウム系で(写真参考),これと異なる	3, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 17, 69, 70
きんちょうのまい	金蝶ノ舞,金蝶の舞	○	昭和8年以前			大葉。蝶々葉,緑地に白黄覆輪,濃紅の蛇の目,葉縁の先端部に紫紅の斑点	太閤錦の枝変わり(縞化),葉縁先端部の紫紅の斑点と蝶々葉について,別々の写真で示したが,本来は同時に現れる。	16, 19, 21, 22, 23, 24, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 77, 80
きんつかさ	金司		大正4年以前					3
きんほう	金鳳		昭和4年以前					10, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 23
きんぽう	金宝		大正4年以前					3
きんほうにしき	金鳳錦	○	昭和2年以前			肉厚丸形の小葉,黒緑地に黄の大覆輪,茶紅の太い蛇の目,花紅一重		42, 62, 63, 64, 65, 80, 81
きんみかど	金美可登		大正4年以前					3, 4, 5, 6
きんめいでん	錦明殿,金明殿		昭和17年以前					22, 23, 60
きんりゅう	金龍		昭和14年以前			小型種,肉厚の小葉,五色葉	錦旗の枝変わり?	18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 60, 77
きんりん	金麟,錦麟		昭和14年以前			五色葉,黄覆輪	玉錦の枝変わり?	21, 22, 23, 60, 77, 78
くにのひかり	国の光		昭和14年以前			本紅刷毛目縞		76
くもいづる	雲井鶴	○	戦後	長野県		楓形の小葉,黄白覆輪,紅の蛇の目		64, 65, 66, 80, 81
くもいにしき	雲井錦		昭和33年以前					24
くらまてんぐ	鞍馬天狗	○	平成10年以前	亀岡市の芳香園・松本芳一		小葉,黄覆輪,太蛇の目		80
くろたんちょう	黒丹頂		昭和3年以前			白覆輪,紺の蛇の目		8, 11, 16, 19, 21, 22, 23, 24, 59, 60, 61
ぐんかく	群鶴		昭和14年以前			縞葉	錦鶴の枝変わり?	19, 24, 60
ぐんこう	群光		昭和14年以前					19
ぐんこうにしき	群光錦		昭和14年以前	群馬県の尾内				20
くんぎん	勲山		昭和17年以前					22, 23, 24
ぐんぽう	群宝		昭和8年以前			円形葉,薄緑地に黄白の大小刷毛目斑,朱黄の太い蛇の目		16, 59
ぐんぽうにしき	群芳錦		昭和8年以前			薄黄地に白の刷毛縞,薄紅の太い蛇の目		56
げっこうでん	月光殿		1980年代	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	二色系,淡黄大中透斑		81
こうざんにしき	光山錦	○	昭和14年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	丸形の小葉,五色葉,白覆輪,紅の太い蛇の目。秋冬に紅を帯びる。花緋紅一重		21, 22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 77, 80, 81
こうせつ	紅雪		大正4年以前				富士雪ノ赤輪(2)	2
こうにしき	広錦		昭和8年以前					75
こうようでん	皇陽殿		昭和17年以前					23
こうようにしき	皇陽錦		昭和15年以前					21, 22, 23
こうりゅうにしき	黄龍錦		昭和8年以前				黒雲龍の実生	17
こきんらん	古今欄	○	昭和40年頃			浅緑地に黄の大覆輪,茶の太い蛇の目	昭和40年頃古今欄が絶滅したため,似たような別品種に命名	82
こきんらん	古今欄		昭和4年頃			笠形の大葉,浅黄地にクリーム色の大小の刷目絞りや散り斑,時に黄緑覆輪,橙黄の蛇の目		10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 73, 75, 76, 80, 81
こくうんにしき	黒雲錦		昭和4年	群馬県	静岡県の濱島松三郎	小型種,丸形の五色葉,黒緑地に黄と紅の刷毛目縞と散り斑,時に黄の大覆輪,紫紅の蛇の目	黒雲龍の実生	11, 13, 15, 16, 17, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 56, 60, 75, 77
こくうんも	黒雲母		昭和14年以前					20
こくうんりゅう	黒雲竜,黒雲龍	○	大正4年以前	輸入		楓形の小葉,暗黒地に濃紺の蛇の目。花緋紅一重		3, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 32, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 69, 71, 75, 81
こくおうにしき	国王錦		昭和17年以前					22, 23
こくほう	黒鳳		大正6年以前			肉厚の楓葉,蝶々葉や銀杏葉にも。葉縁は大小の切込み,深緑地に濃紺の太い蛇の目		5, 12, 16, 59
こくほうにしき	国宝錦		昭和6年	群馬県	沼津葵大会会場にて	小型種,切込み深い肉厚の五色葉,黒褐紫地に桃から紅に変化する覆輪,濃紅の蛇の目	黒雲龍系の実生,もしくは紫雲龍の実生?	16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 56, 59, 60, 61, 75, 76, 77, 80
こくほうにしき	黒宝錦		昭和14年			大葉,濃黄の大覆輪,濃黄の刷毛目,本紅の蛇の目	黒雲龍系の実生	76
こくぼたん	黒牡丹	○	昭和14年以前			厚葉,黒地に赤クリームの細覆輪,紺の太い蛇の目		21, 22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 76, 77
こくりゅう	黒龍		大正3年以前				谷間の雪中黄斑改メ(1)	1, 4, 6
ここのえ	九重		昭和17年以前					11
ここのえにしき	九重錦		昭和17年以前					13

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
こしのほまれ	越の誉, 越之誉, 越ノ誉		明治			丸形の大葉, 緑地に純白の刷毛目縞, 紺の太い蛇の目。花濃朱半八重大輪	紺蛇の目ニ白のチリ斑改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 61, 67, 72, 73, 75
こしのゆき	越之雪		昭和11年以前			白刷毛目斑。花朱赤八重		71
ごしょぐるま	御所車		昭和10年以前			肉厚の大葉, 濃緑地に綿桃の覆輪かけ		59
ごしょにしき	御所錦	○	大正5年	横浜植木(株)の輸入	横浜植木(株)	丸形の大葉, 五色葉, 新葉は鮮緑地に薄黄覆輪, 後に黄覆輪, 本紅の太い蛇の目。花緋一重	大虹出(5)	5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 32, 33, 34, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 74, 75, 76, 77, 80, 81
ごだいしゅう	五大州	○	昭和3年以前			大葉, 五色葉, 黄白覆輪, 紅の蛇の目。花緋一重	世界之図の枝変わり	8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 32, 33, 34, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 56, 58, 59, 60, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 81
こっこう	国光		昭和14年以前					19
こっこう	黒光		大正4年以前					2, 3
こっこうにしき	国光錦		昭和14年以前	群馬県の尾内		中葉		20, 21, 22, 23, 24, 60, 77
ことひらにしき	琴平錦	○	昭和7年以前	四国		丸形の大葉, 青緑地に白覆輪, 濃桃の太い蛇の目。花桃色		15, 16, 17, 19, 21, 22, 23, 24, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
ことぶき	寿	○	昭和7年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤栄一	大葉, 五色葉, 緑地に白の大覆輪, 紅桃の太い蛇の目		11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 56, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 75, 77, 81
こまち	小町		大正4年以前	横浜市の水田				4, 5, 6
こまどり	駒鳥	○	昭和33年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	肉厚楓形の小葉, 黄赤の細覆輪, 紺紅の蛇の目		24, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
こんごう	金剛		昭和3年	静岡県の松木		ペラルゴニウム系。青緑地に黄大覆輪。花紫大輪	別名　旭晃。枝変わりによる	12, 16, 17, 70, 73
ささなみ	漣	○	大正4年以前	輸入	横浜植木(株)	不定形葉, 深い切込み, 青緑葉に白の覆輪, 葉先に純黄の大小の玉斑飛び入り(コンペイ斑)。	一度絶滅し, 昭和3年頃横浜植木が再輸入。暑さに弱く, 暖地での栽培は難しい	4, 6, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 32, 56, 59, 61, 66, 67, 68, 70, 73, 75, 81
ささのゆき	笹ノ雪		大正4年以前					4
さんこう	三光		昭和2年以前			淡紅褐色の蛇の目覆輪		16, 48
さんこうのつかさ	三光之司, 三光司		昭和3年以前			平葉で切込み, 黄金地にやや緑を帯び, 赤褐色の蛇の目		9, 10, 12, 15, 17, 50, 57, 70, 73
さんこうのにしき	三光ノ錦, 三光錦		明治			丸形の大葉, 黄地に濃紫の蛇の目。花桃一重	三色改メ(1)	1, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 35, 39, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 60, 67, 68, 69, 71, 72, 73, 75
さんこうのほまれ	三光之誉, 三光の誉, 三光ノ誉, 三光誉		昭和2年以前			丸形の大葉, 浅緑地に赤褐色の蛇の目。花濃桃一重小輪		7, 8, 9, 10, 13, 14, 16, 17, 18, 19, 21, 23, 24, 32, 56, 60, 69, 70, 73
さんごうかく	三合角		大正3年以前				ノヲコ改メ(1)	1
さんごかく	珊瑚閣		明治			緑地に薄黄の中斑。葉は乳白色で縞が入り, 秋冬に紅に変化。花黒紅八重		2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 12, 14, 15, 18, 25, 26, 27, 35, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 58, 67, 69, 75
さんしきこう	三色光		大正4年以前			薄黄地に赤褐色の太い蛇の目。花朱一重	三色葉改メ(2)	2, 3, 17, 37, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 58, 69, 71
しうんかく	紫雲閣		昭和8年以前			厚葉, 時に銀杏葉や蝶々葉, 楓葉に変化, 色は紫紅色	紫雲龍の枝変わり	16, 59
しうんでん	紫雲殿	○	昭和7年以前	輸入		肉厚の小葉, 赤紫地にクリーム色または赤の細覆輪, 紺の太い蛇の目	紫雲龍の実生。別名　むさし誉	11, 13, 20, 24, 64, 65, 66, 78, 80, 81
しうんも	紫雲母		昭和14年以前				紫霞母と同じか？	20
しうんりゅう	紫雲竜, 紫雲龍		大正4年以前			肉厚丸形の小葉, 紫緑地に紺の蛇の目, 秋冬に紅覆輪。花赤一重小輪		3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 32, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 60, 61, 69, 70, 71, 72, 73
しうんりゅうふ	紫雲龍斑		大正3年以前					12
しかいなみ	四海波		大正4年以前			切込みのある大葉, 黄金地に淡紅の蛇の目。花桃一重	隠蓑の枝変わり？	3, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 69, 70, 73
しきんざん	紫金山		昭和26年以前				紫雲龍系	60
しきんらん	紫金襴		昭和26年以前					60
しぐれにしき	志ぐれ錦		昭和33年以前					24
ししんでん	紫震殿, 紫宸殿		大正5年以前			小型種。縮緬五色葉, 茶褐色地に黄と紅の刷毛目縞または黄の大覆輪, 紺の蛇の目。花赤一重	紫雲龍の実生	14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 35, 56, 75
ししんぼ	紫震母		昭和14年以前				紫雲母と同じか？	20
しずまつにしき	静松錦	○	昭和5年以前	静岡県	静岡県の松木	丸形の五色葉, 緑地に白の大覆輪, 紫紅の太い蛇の目	丹頂と錦旅の交配	11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 70, 73, 75, 77, 81
しちふくじゅ	七福寿		昭和7年以前					74
しちふくじん	七福神	○	大正4年以前			丸形の不同葉, 浅黄地に紅褐色の太い蛇の目。花鮮桃		4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 81
しっぽうにしき	七宝錦	○	昭和3年	四国	愛知県の久米国太郎	薄肉丸形の大葉, 五色葉, 青緑地に白の大覆輪, 濃桃の蛇の目。	実生	11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 56, 59, 62, 63, 64, 65, 66, 75, 80, 81
しのくに	篠国	○	昭和17年以前	愛知県の久米国太郎	愛知県の久米国太郎	丸形の小葉, 白覆輪, 紅紫の太い蛇の目。花緋紅一重		23, 24, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
しののめ	東雲		大正4年以前					4

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
しゅうざん	秀山	○	昭和33年以前			丸葉の小葉, 白覆輪, 鮮紅の太い蛇の目		24, 62, 63, 64, 65, 66, 78, 80, 80, 81
しゅうほうにしき	秀峰錦	○	昭和17年以前			丸葉, 白の大覆輪, 鮮紅の太い蛇の目		22, 23, 24, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
しゅじゃく	朱雀						「すざく」を見よ	
しゅんざん	春山	○	昭和33年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	小型種, 丸形の小葉, 白覆輪, 鮮紅の蛇の目, 秋冬は紫に変化		24, 62, 63, 64, 65, 66, 78, 80, 81
しょうじょう	猩々		昭和5年以前			黄金地に柿渋の蛇の目, 花桃一重		70, 73
しょうわにしき	昭和錦	○	大正5年		横浜市	中型種, 二色系, 縦葉, 濃緑地に白の打ち込み斑, 秋冬に淡黒淡紅の蛇の目, 花紅八重	戦勝錦の枝変わり(縦化)	10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 75
しょっこうきりん	蜀紅麒麟		大正4年以前					3
しょっこうにしき	蜀紅錦		大正4年以前					3
しらたか	白鷹						「はくたか」を見よ	
しらゆき	白雪		昭和14年以前					20, 22
しろたか	白鷹						「はくたか」を見よ	
しろたんちょう	白丹頂		昭和7年以前			丸葉, 鮮緑地に純白の大覆輪	丹頂の枝変わり	13, 16, 19, 21, 22, 24, 59
しんじゅ	真珠	○	昭和7年以前	愛知県の久米国太郎		緑地に薄黄の中透け, 茶紅の太い蛇の目。花桃色	常盤の枝変わり	12, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 56, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
しんせかい	新世界		昭和2年以前					7
じんだい	神代	○	大正3年以前	輸入	横浜植木(株)	二色系, 淡緑地に白の大覆輪, 淡紫の太い蛇の目。花桃八重大輪	品種名 Mrs. Parker 現在の品種は蛇の目が現れず, やや縦化	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 32, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 72, 73, 74, 75, 76, 80, 81
じんだいこ	陣太鼓		大正4年以前					3, 6
しんちょうにしき	真頂錦		昭和5年以前			赤, 黒, 茶の斑入り, 白覆輪	真鶴と丹頂の交配	16, 17, 70, 73
ずいうんにしき	瑞雲錦	○	昭和14年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	やや楓形の小葉, 白覆輪, 紫紅の太い蛇の目		19, 20, 22, 23, 24, 60, 61, 64, 65, 66, 80, 81
ずいほうかん	瑞宝冠		昭和8年以前					17
すざく	朱雀		平成10年以前	京都府の栗田農園・栗田武夫		薄葉, 茂緑に白の大覆輪, 鮮紅の太い蛇の目。花赤一重大輪多花性	塚本(1989)によると「しゅじゃく」	79
すみぞめ	墨染		大正6年以前			黒緑葉, 細い蛇の目, 花緋一重	大正出(5)	5, 36, 38
するすみ	摺墨		昭和7年以前			黒葉		12, 15, 16, 17, 18, 19, 56
するすみうすずみ	摺墨薄墨		大正6年以前			斑葉, 花絞大々輪		36
せいかいなみ	青海波	○	大正4年以前	輸入	横浜植木(株)	二色系, 葉はやや縦化して波打つ, 青緑地に白の覆輪。花本紅一重大輪	読み方は加藤政治による	4, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 59, 61, 62, 63, 64, 65
せいがいは	青海波						「せいかいなみ」を見よ	
せかい	世界		大正6年以前					5
せかいのず	世界之図, 世界図, 世界の図, 世界ノ図	○	大正4年以前	横浜市	片桐?	丸形の大葉, 五色葉, 緑地に黄金の大覆輪, 濃淡紅の太い蛇の目。花緋一重		3, 4, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 32, 33, 34, 46, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 80, 81
せかいまる	世界丸		大正6年以前				金世界出(5)	5
せつげっか	雪月花	○	昭和10年以前			肉厚の縦葉, 鮮緑地に白の大小刷毛目縞, 時に覆輪, 濃桃の蛇の目		24, 59, 60, 61, 62, 63, 64
せっこう	雪晃, 雪光		昭和3年頃		神戸	ベラルゴニウム系。緑地に純白の中斑。花は赤地に吹きかけ絞りの白覆輪。大輪		8, 9, 10, 12, 13, 14, 16, 17, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 69, 70, 71, 73, 74, 75
せんこうにしき	扇港錦		昭和7年以前					14, 17
せんこうのほまれ	扇港誉		昭和14年以前					18, 20, 21
せんざんにしき	尖山錦		昭和14年以前			小型種, 丸葉の照葉, 純白の大覆輪, 紅の蛇の目	黒雲龍系の実生	76
せんしょうにしき	戦勝錦	○	大正4年以前	輸入?		二色系, 丸葉, 青緑地に黄と白の散り斑, 白の大覆輪, 花緋色八重巨大輪	源氏車の枝変わり	3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 23, 24, 32, 39, 41, 42, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 72, 73, 80, 81
せんりこう	千里香		昭和9年以前			ニオイゼラニウム系。丸葉に白斑。花小輪		58
そうきゅうにしき	反丘錦		平成10年以前	京都府の栗田農園・栗田武夫		大葉, 黄覆輪, 太蛇の目。		80
たいしょう	大正		大正4年以前					4
たいしょうにしき	大正錦	○	大正4年以前			二色系, 大小の葉, 葉面は波打ち, 凹凸の切れ葉。青緑地に白の覆輪, 花濃紅八重大輪		3, 11, 13, 16, 19, 21, 24, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 73, 81
たいしょうほまれ	大正誉, 大正之誉, 大正の誉		大正4年以前			緑地に白覆輪		4, 5, 7, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 17, 18, 23, 32, 57
たいてん	大典		昭和3年		豊橋の中村	小型種, 波打つ黄褐色葉, 秋冬に朱紅の覆輪, 花赤一重	紫雲龍, もしくは黒雲龍の枝変わり(縦化)	11, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 56, 59, 70, 73, 75, 77
たいてんにしき	大典錦		大正6年以前					5
たいよう	太陽		大正4年以前			緑地に黄覆輪, 淡紅の蛇の目。花赤一重		4, 5, 6, 11, 13, 20, 28, 29, 30, 32

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
たいようにしき	太陽錦	○	明治？	輸入	横浜植木(株)	楓形の五色葉, 緑地に黄白の大覆輪, 濃紅の蛇の目, 花赤一重大輪	品種名 Sky of Italy	3, 7, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 23, 24, 31, 33, 34, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 81
たかねにしき	高峰錦, 高嶺錦		昭和3年以前			丸形の大葉, 黒紫の太い蛇の目, 時に紅褐色が入る, 花桃一重		14, 15, 16, 17, 19, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 59, 69, 70, 73
たかはまにしき	高浜錦		昭和10年以前			丸葉, 深緑地に純白の覆輪, 紅紫の太い蛇の目		59
たかまつにしき	高松錦		昭和6年	高松市の花村	静岡県の濱島松三郎と高松市の花村とで協議	小型種。五色葉, 紫紺地に紅と白の刷毛縞または白の覆輪, 紫紺の蛇の目	紫雲龍, もしくは黒雲龍の実生	15, 16, 17, 56, 75
たからにしき	宝錦		大正4年以前	横浜市の水田				4, 6
たつたにしき	龍田錦, 立田錦		大正5年	国内		肉厚丸葉, 青緑地に純白の覆輪, 鮮桃の太い蛇の目		16, 19, 59, 76
たつなみ	龍波		昭和8年以前				黒雲龍の実生	17, 19, 23, 60
たにまのゆき	谷間の雪, 谷間雪, 谷間之雪, 谷間ノ雪	○	大正3年以前	輸入		青緑地に白黄の中斑, 黒茶の蛇の目。花朱赤一重大輪	品種名 Happy Thought。細蛇の目ノ白の中斑改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 32, 35, 36, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 58, 59, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 80, 81
たまにしき	玉錦	○	昭和17年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	小型種。楓形の小葉, クリーム色の覆輪, 紅の太い蛇の目		23, 24, 62, 63, 64, 65, 66, 78, 80, 81
たまやまにしき	玉山錦	○	昭和33年以前					24
たんちょう	丹頂	○	大正3年頃	横浜市	横浜市の京楽園・片桐八郎	楓形の五色葉, 青緑地に白の覆輪, 紺紅の太い蛇の目, 花紅一重大輪	地球錦と区別して「新五色葉」と呼ばれた。上海からの輸入または九州での作出など諸説あり, 改名前 丹頂之鶴	4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 37, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 81
たんちょうのつる	丹頂之鶴		大正4年以前			楓形の五色葉, 青緑地に白の覆輪, 紺紅の太い蛇の目	改名後 丹頂	3, 11, 25, 26, 27, 32, 33, 34, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 58, 67, 75
ちきゅうにしき	地球錦	○	明治	輸入	横浜植木(株)	大葉, 五色葉, 鮮緑地に白黄色の覆輪, 桃紅色の蛇の目。花緋一重	五色葉改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 58, 59, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 66, 67, 68, 69, 70, 72, 73, 75, 81
ちくしにしき	筑紫錦		大正6年以前			丸葉, 黄地に濃赤褐色の蛇の目。花淡朱一重		12, 15, 36, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 57, 58
ちくしみの	筑紫箕		大正13年以前					72
ちくまのかがやき	千曲の輝	○	1980年代	長野県		肉厚丸形の大葉にクリーム色の覆輪, 紅の蛇の目, 花紅色	栄冠の枝変わり。改名前 千曲錦	66, 81
ちとせづる	千歳鶴, 千年鶴		大正5年以前			縮れ波打つ大形の五色葉, 緑地に白覆輪, 紫の蛇の目, 花赤一重大輪		9, 10, 12, 14, 15, 17, 18, 32, 33, 34, 44, 45, 46, 56, 57, 68, 69, 70
ちとせにしき	千歳錦		昭和5年以前					73
ちどり	千鳥		大正3年以前			小型種。丸形の小葉, 緑地に白の大覆輪。茎は紅色, 花赤色	白覆輪ニザゼンソウ形改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 20, 24, 25, 26, 27, 35, 36, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 58, 67, 69, 70, 71, 72, 73
ちどりなかふ	千鳥中斑		昭和3年以前					9, 10, 15
ちょうじゅらく	長寿楽		昭和8年以前			丸葉, 緑地に黄色の斑斑, 紫紅の太い蛇の目	神代, もしくは富士之雪の斑入り	18, 19, 20, 21, 22, 23, 56, 59, 77
ちよだにしき	千代田錦	○	大正末	愛知県海部郡の久米国太郎	横浜市の京楽園・片桐八郎(昭和2年)	平らな大葉, 五色葉, 青緑地に新葉は黄覆輪, 後に白覆輪, 濃紅の細い蛇の目。花緋一重	改名前 艶麗	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 32, 33, 34, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 74, 75, 77, 80, 81
ちよだのまつ	千代田松, 千代田乃松, 千代田の松		昭和14年以前	群馬県の尾内				19, 20, 77
ちよのほまれ	千代ノ誉, 千代乃誉, 千代の誉	○	昭和14年以前	群馬県の尾内		肉厚の小葉, 白の細覆輪, 秋冬に桃紅の覆輪。花桃紅一重大輪。		19, 20, 21, 22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
ちよのまつ	千代の松, 千代ノ松	○	昭和15年以前			丸形の小葉, 黄の大覆輪, 時に白覆輪, 金茶の蛇の目, 花赤一重多花性	千代ノ誉の枝変わり	21, 22, 23, 24, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
つかさぼたん	司牡丹		昭和3年以前			丸葉, 薄茶地に黒褐色の太い蛇の目		8, 10, 12, 15, 16, 17, 19, 21, 23, 56, 70, 73
つるのごろも	鶴ノ衣						「かくしょう」を見よ	
てんこう	天晃	○	昭和3年	静岡県の松木	静岡県の松木	ペラルゴニウム系。青緑地に黄の大小の刷毛目絞り, 花は紫にビロードの黒の星入り, 一重大輪	紫式部の枝変わり	10, 11, 12, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 64, 65, 66, 73, 75
てんしょうにしき	天照錦		昭和7年以前			楓形の大葉, 五色葉, 青緑地に黄金の大覆輪, 薄紅の太い蛇の目, 花碧紅八重大輪		11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59
てんじょのまい	天女ノ舞, 天女の舞, 天女舞, 天女之舞						「てんにょのまい」を見よ	
てんにょのまい	天女ノ舞, 天女の舞, 天女舞, 天女之舞	○	昭和5年	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	丸形の大葉, 五色葉, 緑地にクリーム色の大覆輪, 紅の蛇の目	御旗錦の枝変わり。加藤政治によると「てんじょのまい」	11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 60, 61, 64, 65, 66, 75, 77, 81
とうあにしき	東亜錦		昭和17年以前					23
とうよう	東洋		大正4年以前					2, 3, 16, 17, 19, 21, 23
とうようにしき	東洋錦		大正4年以前	国内		淡黄地に淡赤の蛇の目。花淡桃一重	金月の枝変わり	2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 12, 15, 39, 40, 41, 42, 43, 57, 68
ときわ	常盤	○	大正	東京都の小林	横浜市の京楽園・片桐八郎	大葉, 丸形の五色葉, 淡緑地にクリーム色の覆輪, 鮮桃と薄茶の太い蛇の目。花サーモン色	実生	10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 73, 75, 76, 80, 81
なみちどり	波千鳥	○	1990年代	イギリスからの輸入	旭植物園？	ニオイゼラニウム系。小形の千鳥葉, クリーム色の覆輪。花サーモン一重	*P. crispum*の斑入り	81

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
なるとにしき	鳴戸錦, 鳴門錦		昭和4年以前	四国		肉薄丸形の大葉, 鮮緑地に大小刷毛目縞散り斑, 淡赤黄の太い蛇の目	富士之雪の枝変わり？	10, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 56, 59
にしきこう	二色光		大正3～4年頃					76
にしきちどり	錦千鳥		大正4年以前					3, 6
にしきづる	錦鶴	○	大正4年以前			丸形の五色葉, 緑地に白覆輪, 紅の細い蛇の目。花緋一重		4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 32, 33, 34, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 68, 70, 72, 73, 74, 75, 81
にしきのつかさ	錦の司, 錦ノ司, 錦之司		昭和5年以前			やや切れ目のある薄肉丸葉, 五色葉, 緑地に純白の大覆輪, 背のカスリ斑, 紺紅色の太い蛇の目。花紅色		13, 14, 15, 16, 17, 56, 59, 70, 73
にしきびな	錦雛		大正4年以前			大葉。深い鋸歯。白覆輪まれにべっ甲色。細い紅輪		68
にしきぼたん	錦牡丹		昭和7年以前					13, 16, 17
にっこう	日光		昭和14年以前	群馬県の尾内				20
にほんにしき	日本錦		大正4年以前					3
にほんのひかり	日本の光		昭和17年以前					23
はくうんにしき	白雲錦		昭和33年以前					24
はくおう	白王		大正4年以前					2
はくたか	白鷹		大正3年以前			半斑性。緑地に白覆輪。花紅一重	斑生白フクリン改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 25, 26, 27, 35, 36, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 67, 70, 71, 72, 73, 75
はくちょう	白蝶		大正4年以前	四国		大型種。肉厚で蝶々葉にも銀杏葉にも変化, 鮮緑地に白覆輪。花純白一重大輪多花性	実生。斑入り葉の白花は当時これだけであった。	3, 4, 5, 8, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 56, 59, 61, 75
はくちょう	白鳥	○	昭和4年以前			ニオイゼラニウム系		10, 20, 78
はくほう	白宝	○	昭和4年頃	横浜市の藤沢花園		小型の斑性。肉厚丸葉, 青緑地に白の刷毛目絞りと散り斑, 時に大覆輪と蛇の目。花赤八重大輪多花性	小町娘の枝変わり	11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 53, 56, 60, 61, 64, 65, 66, 75, 81
はくほう	白鳳		昭和14年以前			肉厚丸葉, 白刷毛目縞。花紅八重多花性		20
はくほうかん	白宝冠		昭和8年以前			小型種。厚葉, 青緑地に純白の大覆輪		56
はくぼたん	白牡丹		昭和8年以前					17
はくりゅうにしき	白龍錦		昭和10年以前			肉厚丸形の五色葉, 暗紫地に純白の覆輪, 紅の太い蛇の目		18, 19, 20, 21, 23, 59, 77
はごろも	羽衣	○	大正3年頃	輸入	横浜植木(株)	小形の銀杏葉, 黄緑無地。花赤切込み大輪	金蝶改(4)	4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 32, 33, 34, 36, 46, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 74, 75, 80, 81
はごろもじし	羽衣獅子	○	戦前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	二色系, 白飛び覆輪, 赤紺の蛇の目		24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
はごろもにしき	羽衣錦	○	昭和14年以前		横浜市の竹中竹三郎	肉厚の小葉, 夏は丸葉, 秋冬は切込みウチワ葉。夏は黒地に白の大覆輪, 秋冬は白の細覆輪	羽衣に黒雲錦を交配。または紫雲龍より枝変わり？	19, 21, 22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 77, 80, 81
はごろものまつ	羽衣之松, 羽衣ノ松, 羽衣の松	○	昭和14年以前			二色系, 銀杏葉に茶の太い蛇の目。花紅色	羽衣の実生	18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 76, 77, 80
はつえにしき	初江錦		昭和8年以前					16, 17
はですがた	派手姿		昭和10年以前			薄緑地にクリーム色の覆輪, 紅の太い蛇の目		59
はなのみかど	花の帝		大正6年以前			白覆輪金糸斑		36
はなふぶき	花吹雪		1990年代	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	肉厚の千鳥葉に白の吹雪斑。花濃紫紅八重	'Robinson' の枝変わり	81
はなみかど	花美可登, 花美香登	○	大正4年以前	輸入		切込み葉, 青緑地に白覆輪。花濃紅八重大輪	品種名 Silver S. A. Nutt。美可登錦を改名	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 32, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 56, 57, 58, 59, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 69, 70, 71, 72, 73, 81
はなむらにしき	花村錦	○	昭和5年	高松市の花村	高松市の花村	大型種。丸形の巨大葉, 五色葉, 濃緑地に白の刷毛縞, 白の大覆輪, 濃紅桃の蛇の目	実生	12, 15, 16, 17, 19, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 76, 80, 81
はまちどり	浜千鳥		大正4年以前			斑性楓葉, 緑地に白の中斑, 緑の網目。花赤紫一重		4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 15, 25, 26, 27, 67, 68, 73, 75
はまにしき	浜錦		昭和3年	静岡県の濱島松三郎	静岡県の濱島松三郎	五色葉, 緑葉に白の覆輪, スカシあり, 黒褐色と朱紅の蛇の目		16, 17, 19, 56, 75
はるこま	春駒		大正4年以前					3
ひのつかさ	日之司, 日の司, 日ノ司, 日乃司, 緋の司		大正4年以前			丸形の五色葉, 緑地に薄黄覆輪, 濃淡紅の蛇の目	地球錦の枝変わり	3, 6, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 44, 45, 46, 47, 58, 69, 70, 73
ひのでづる	日之出鶴, 日の出鶴, 日出鶴, 日ノ出鶴	○	昭和2年以前			丸形の五色葉, 緑地に白覆輪, 濃淡紅の細い蛇の目, 花緋一重	細輪丹頂改メ(7)	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 24, 46, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 73, 75, 81
ひのまる	日之丸, 日丸, 日ノ丸, 日の丸	○	大正4年以前			楓形の大葉, 五色葉, 緑地に白黄の覆輪, 本紅黒褐色の蛇の目。花緋一重大輪		3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 32, 44, 46, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 70, 73, 75, 80, 81
ひのみはた	日之御旗		昭和33年以前					24
びほう	美鳳		昭和5年以前			丸葉, 純白の覆輪, 濃桃紅の太い蛇の目		16, 17, 19, 69,
ひめちどり	姫千鳥	○	昭和9年以前			千鳥葉, 濃緑地に中真淡色。茎乳白色で秋冬は紅色	現在の品種と異なる(写真参考)	58
ひめにしき	姫錦		昭和17年以前					22
ふいりゆきのした	斑入雪の下		昭和10年以前			丸葉, 白の斑入り		59

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[2]
ふくせかい	福世界		大正4年以前					3
ふくづつみ	福包		大正4年以前					4
ふじ	不二, 富士		大正5年以前			白覆輪葉。花赤八重		35, 36, 48
ふじにしき	不二錦	○	昭和4年以前			楓形の大葉, 五色葉, 鮮緑地にクリーム色の覆輪, 濃紅の太い蛇の目。花赤八重大輪		10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 73, 80, 81
ふじのゆき	富士ノ雪, 富士ノ雪, 富士の雪, 富士の雪, 富士乃雪, 富士之雪, 富士之雪, 富士雪, 不二の雪	○	明治	輸入		二色系, 葉に白の大覆輪。花緋八重大輪	品種名 Mme. Languth. 白ノ大フクリン改メ(1)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 80, 81
ふぶきのまつ	吹雪ノ松, 吹雪之松, 吹雪松, 吹雪の松	○	昭和3年頃	輸入	横浜植木(株)	二色系, 葉は波打つ, 薄緑地に純白地の中斑。茎と葉柄は白色。花紅一重	品種名 Freak of Nature	11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 19, 20, 24, 32, 33, 34, 57, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 71, 75, 78, 81
へいあんにしき	平安錦	○	昭和62年以前	京都府	京都府の栗田農園・栗田武夫	丸葉, 黒緑地に緑黄の覆輪, 黒紅の太い蛇の目。花紅色		66, 81
へいわにしき	平和錦		昭和14年以前	群馬県の尾内				20
べにちどり	紅千鳥	○	大正3年以前	輸入		変性。肉厚小形の千鳥葉, 緑地に白の覆輪, 秋冬に桃紅覆輪に変化。花淡紫一重大輪	品種名 L' Elegante	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 32, 33, 34, 35, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 75, 81
べにちどりなかふ	紅千鳥中斑		大正4年以前					4
ほうおう	鳳凰		大正4年以前			ニオイゼラニウム系。細い切込み葉に白斑。花淡紫赤一重	鳳凰錦の親?	2, 4, 9, 10, 18, 20, 44, 45, 46, 47, 48, 57, 58
ほうおうにしき	鳳凰錦	○	大正3年以前	輸入		ニオイゼラニウム系。切込み深く, 青緑地に白黄覆輪, 秋にやや紅色が出る。花淡紫小輪一重	品種名 Grey Lady Plymouth. ジャコウ改メ(1)。覆輪麝香改メ(2)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 42, 44, 45, 46, 47, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 69, 70, 73, 75, 81
ほうかん	芳冠		昭和2年以前			ニオイゼラニウム系?		7, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 44, 45, 46, 56, 57, 69, 70, 73
ほうぎょくにしき	宝玉錦		昭和8年以前			薄肉の大葉, 青緑地に純白の大覆輪, 薄桃の太い蛇の目		16, 59
ほうざん	宝山	○	大正	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤栄一	丸形の小葉, 深緑地にクリーム色の覆輪, 濃紅の太い蛇の目		19, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
ほうざんにしき	宝山錦		昭和14年以前			中葉		21, 22, 23, 24, 60, 77, 78
ほうめいにしき	豊明錦		昭和8年以前			切込みのあるやや楓葉, 緑地に純白の覆輪, 鮮紅の太い蛇の目		16, 17, 19, 59
ほうらいざん	蓬莱山		昭和17年以前	伊勢崎市の金井貞知	伊勢崎市の金井貞知	丸形の小葉, クリーム色の大覆輪, 紅の太い蛇の目		22, 23, 78, 80, 81
ほまれのにしき	誉ノ錦	○	昭和15年以前			楓葉に鮮黄白の覆輪, 紅の細い蛇の目		21, 22, 23, 24, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 81
まいづる	舞鶴		昭和2年以前			丸葉, 白覆輪, 黒掙桃紅の蛇の目		7, 8, 9, 10, 12, 14, 15, 70, 73
まがたま	曲玉	○	昭和3年	静岡県の長村	静岡県の濱島松三郎	ニオイゼラニウム系, 小葉, 青緑地にクリーム色の大覆輪, 花白一重極小輪	*P. fragrance*の斑入り。芳冠の枝変わり	11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 71, 75, 81
まつえにしき	松江錦	○	昭和4年以前	輸入		二色系, 楓葉, 青緑地に白の覆輪, 時に淡紺の蛇の目が薄く入ることも。花紅一重	品種名 Madame Salleron. 現在海外で扱われている品種と異なる。葉が薄く, 夏の高温を嫌い, やや栽培しにくい	10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 24, 32, 33, 34, 50, 51, 55, 56, 59, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 80, 81
まつかぜ	松風		昭和5年以前			平らで切れ目のある葉, 淡黄地に青緑の中斑		70, 73
まなづる	真鶴	○	大正4年以前	輸入		笠形の大葉, 五色葉, 青緑地に白覆輪, 濃桃の太い蛇の目。有毛。花緋一重多花性		4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 80, 81
まなづるにしき	真鶴錦		昭和33年以前					24
まりか	萬里香						「まんりこう」を見よ	
まんりこう	萬里香		大正4年以前					4
みかど	美か登		大正3年以前				白覆輪青ノコンペイ付改メ(1)	1
みかどにしき	美可登錦, 美香登錦		大正元年頃			変性。白の虎斑。花淡色	後に花美加登?	2, 3, 4, 5, 6, 25, 26, 27, 37, 67, 68, 75
みかどにしき	帝錦		大正10年頃			大型変性。千鳥葉, 緑地に白覆輪, 淡紅の蛇の目。葉形は変化し, 時に鶴望を出す。花赤紫一重	磯千鳥より?	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 46, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 69, 70, 73, 75
みかわにしき	三河錦	○	昭和15年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	大葉, 白の大覆輪, 桃紅の太蛇の目。花桃色		21, 22, 23, 24, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 81
みずほにしき	瑞穂錦		昭和10年以前					59
みねのほまれ	峯乃誉		昭和14年以前					20
みねのゆき	峯ノ雪, 峯之雪, 峯の雪, 峰の雪		大正4年以前					4, 5, 7, 8, 9, 10, 12, 15, 16, 17, 18, 25, 26, 27, 67, 75
みはたにしき	御旗錦		昭和2年	群馬県	愛知県の旭植物園・加藤清	肉厚丸形の極大葉, 五色葉, 濃緑地に白と紅の刷毛目絞り, 紅と褐色の太い蛇の目	御所錦の実生	11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 33, 56, 75, 77, 80
みほのまつ	三保之松		大正4年以前					3
みむろ	御室						「おむろ」を見よ	

読み(ひらがな)	漢字表記	写真	発表時期	作出者, 作出地	命名者, 命名地	形質	備考(番号は引用文献を示す)	文献番号[z]
みやこにしき	都錦	○	大正4年以前			楓形の五色葉, クリーム色の大覆輪, 紅の太い蛇の目, 花緋一重		4, 10, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 56, 58, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 73, 75, 81
みゆき	御幸		昭和8年以前			青緑地に黄の立縞, 花桃巨大輪	'Sunrise' の枝変わり	56
みよにしき	御代錦		大正4年以前				美可登錦の枝変わり	3, 4, 5, 6, 68
むらくも	叢雲		大正6年以前				谷間出(5)	5
むらくもにしき	叢雲錦		昭和8年以前				黒雲龍の実生	17
むらさきしきぶ	紫式部		昭和3年頃		静岡県の松木	ペラルゴニウム系, 切込葉, 濃紫黒の中斑, 花赤色		15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 56, 70, 73, 75
めいげつ	明月		大正6年以前			切込み葉, 黄地に赤の蛇の目		36
めいざんにしき	名山錦		昭和14年以前	群馬県の尾内		五色葉, 橙覆輪, 紅の細い蛇の目		20, 60, 76
めいざんにしき	明山錦	○	昭和15年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	小葉, 黄覆輪, 紅の蛇の目		21, 22, 23, 24, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 77, 80, 81
ももやま	桃山		平成10年以前	京都府の栗田農園・栗田武夫		肉厚の黒緑葉に黒蛇の目, 花桃多花性		79
ももやまにしき	桃山錦	○	?	京都府の栗田農園・栗田武夫		厚葉, 白覆輪, 紅の蛇の目, 花桃色		82
やえにしき	八重錦		昭和8年以前					16, 17
やくも	八雲		昭和8年以前			薄葉, 深緑地に淡黄の大中斑, 濃紫の太い蛇の目, 花本紅一重		16, 18, 56, 59
やくもにしき	八雲錦		昭和4年以前					10, 17
やちよにしき	八千代錦	○	昭和3年頃	四国	神戸	大型種, 平らな五色葉, 濃緑地にクリーム色の覆輪, 紫紅の太い蛇の目, 花緋一重	実生	10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 69, 70, 71, 73, 75, 81
やましろにしき	山城錦		平成10年以前			丸形の大葉	千代田錦の交配	80
やまとにしき	大和錦	○	昭和7年以前	愛知県		大葉, 丸形の五色葉, 青緑地に黄金の大覆輪, 黄赤の太い蛇の目		11, 13, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 33, 34, 56, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 77, 80, 81
やまむらにしき	山村錦		昭和15年以前					21
ゆうすみれ	夕菫		昭和5年以前			青緑地に茶, 黒, 黄の斑入り		70, 73
よしのにしき	吉野錦		昭和8年以前					16, 21
らいこう	雷光, 雷晃		昭和3年頃		神戸	ペラルゴニウム系, 青緑地に薄黄の大小の刷毛目縞, 花桃赤白覆輪大輪		10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 55, 56, 59, 70, 73, 75
りほう	里風		昭和7年以前					15
れいざんにしき	麗山錦	○	昭和15年以前	横浜市	横浜市の藤沢花園	楓形の小葉, 橙黄の覆輪, 紅の太い蛇の目		21, 22, 23, 24, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 80, 80, 81
れいほう	麗峰	○	昭和58年以前	愛知県の旭植物園	愛知県の旭植物園・加藤清	小葉, 白の大覆輪, 淡紅の蛇の目, 花一重大輪	千代ノ松の枝変わり	64, 65, 66, 80, 81

凡例

漢字は新字体で表記した。

1つの品種で読み方が幾通りも推測される場合は, 重複する一方を, 読みの欄で斜体表記し, 備考欄で「○○を見よ」と示した。

発表時期に○年以前と示したのは, 文献年代から推測したものである。

[z] 文献番号

1. 葵銘鑑　東京群馬横浜茨城埼玉岩城同好会(大正3年6月)　2. 葵葉変見立鑑 第2号　越後国三條裏館 鳳鳴園高坂虎松(大正4年1月)　3. 葵変葉銘鑑　越後小須戸同好会(大正4年6月)　4. 葵変葉銘鑑　横浜有赤者(大正4年7月)
5. 葵変葉銘鑑　東京横浜有志中(大正6年4月)　6. 葵葉変名寄表　蓼青園(大正時代)　7. 葵葉変銘鑑　沼津葵同好会(昭和2年11月)　8. 葵葉変見立鑑　勝府葵同好会(昭和3年2月)　9. 葵葉変銘鑑　横浜葵同好会(昭和3年1月)　10. 葵葉変銘鑑　京楽園片桐(昭和14年4月)
11. 葵葉変銘鑑 第2号　三河旭園(昭和7年1月)　12. 葵葉変銘鑑　京楽園片桐(昭和7年1月)　13. 葵葉変銘鑑 第5号　三河葵同好会(昭和7年2月)　14. 葵葉変名鑑 第2号　沼津葵同好会(昭和7年2月)　15. 葵葉変銘鑑　花村花園(昭和7年3月)
16. 葵葉変銘鑑 第3号　三河・旭園(昭和8年1月)　17. 葵葉変銘鑑　大日本葵協会香川支部(昭和8年3月)　18. 葵葉変銘鑑 第4回　大日本葵協会(昭和14年1月)　19. 葵葉変銘鑑　三河旭園(昭和14年3月)　20. 変葉葵銘鑑　尾内農園・三木園春園(昭和14年4月)
21. 葉変葵銘鑑　大日本葵協会(昭和15年1月)　22. 葉変葵銘鑑　伊勢崎市葵同好会(昭和17年1月)　23. 葉変葵銘鑑　愛知県葵同好会(昭和17年春)　24. 葉変葵銘鑑 第4号　日本葵同好会(昭和33年)　25. 横浜植木株式会社 定価表(大正4年度)
26. 横浜植木株式会社 定価表(大正5年度)　27. 横浜植木株式会社 園芸要覧(大正7年度)　28. 横浜植木株式会社 園芸要覧(大正15年度)　29. 横浜植木株式会社 園芸要覧(昭和2年度)　30. 横浜植木株式会社 園芸要覧(昭和3年度)
31. 横浜植木株式会社 園芸要覧 春期臨時(昭和3年度)　32. 横浜植木株式会社 園芸要覧(昭和4年度)　33. 横浜植木株式会社 園芸要覧(昭和11年度)　34. 横浜植木株式会社 園芸要覧(昭和12年度)　35. 日本種苗株式会社 農林種苗代価表(大正5年春の部)
36. 株式会社学農社 営業案内(大正6年)　37. 長尾草生園　営業案内　観賞植物定価表　(大正8年度春季～大正9年度秋季)　38. 妙華園 Spring Catalogue (大正12年)　39. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第15号 春季種苗目録(大正15年3月)
40. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第17号 秋季種苗目録(大正15年3月)　41. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第18号(大正15年12月)　42. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第19号 春季種苗総目録(昭和2年2月)
43. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第22号 秋季総目録(昭和2年8月)　44. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第23号 春季総目録(昭和3年2月)　45. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第25号 秋季種苗総目録(昭和3年8月)
46. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第27号 春季種苗球根総目録(昭和3年8月)　47. 横浜ガーデン ガーデンタイムス 第32号 秋季種苗球根総目録(昭和4年2月)　48. 不休園 園芸卸目録(昭和2年春季)　49. 不休園 園芸目録(昭和3年春季)
50. 不休園 園芸目録(昭和3年秋季)　51. 不休園 園芸目録(昭和4年春季)　52. 不休園 園芸目録 秋の巻(昭和4年7月)　53. 不休園 園芸目録 春季特別号(昭和5年1月)　54. 不休園 園芸目録 秋季特別号(昭和5年7月)　55. 不休園 園芸目録 春季特別号(昭和6年1月)
56. 沼津農園 春季特別号(昭和8年4月)　57. 東京興農園 園芸便覧(昭和8年春季)　58. 戸畑開農園 園芸恩師(昭和9年度)　59. 三河旭園商報(昭和10年度)　60. 三河旭園商報 第32号(昭和26年度)　61. 旭植物園 生産目録 43号(昭和34年)
62. 旭植物園 生産目録(昭和47年度)　63. 旭植物園 生産目録(昭和48年度)　64. 旭植物園 生産目録(昭和58年度)　65. 旭植物園 生産目録(昭和61年度)　66. 旭植物園 生産目録(昭和62年度)　67. 横浜植木株式会社 園芸植物図譜(大正4年)
68. 園芸之友12・5(大正5年)　69. 園芸之友26・4(昭和5年)　70. 園芸之友28・12(昭和7年)　71. 園芸之友32・3(昭和11年)　72. ガーデン 第2巻第1号(大正13年)　73. ゼラニュームと仙人掌(昭和5年)　74. 実際園芸12・1(昭和7年)　75. 実際園芸14・6(昭和8年)
76. 実際園芸25・4(昭和14年)　77. 実際園芸25・5(昭和14年)　78. ガーデンライフ(昭和47年)　79. 新花卉107(昭和55年)　80. 趣味の山野草(平成10年)　81. 加藤清メモ　82. 加藤政治談

変わり葉ゼラニウムの品種写真

あさまにしき（浅間錦）

いわとのまい（岩戸ノ舞）冬葉

いわとのまい（岩戸ノ舞）夏葉

いそちどり（磯千鳥）

えいかん（栄冠）

おおとり（鳳）

おおにじ（大虹）

おとわにしき（音羽錦）

きみがよ（君ヶ代）

きりん（麒麟）

きんえいざん（錦栄山）

きんき（錦旗）

きんくじゃく（金孔雀）

きんげつ（金月）

きんこうにしき（金光錦）

きんざん（錦山）

きんじし（錦獅子）

きんしゅうざん（錦秋山）

きんせかい（金世界）

きんちょうのまい（金蝶ノ舞）蝶々葉

きんちょうのまい（金蝶ノ舞）紅斑

きんちょう（金蝶）

きんほうにしき（金鳳錦）

くらまてんぐ（鞍馬天狗）

くもいづる（雲井鶴）冬葉

くもいづる（雲井鶴）夏葉

こくぼたん（黒牡丹）

こうざんにしき（光山錦）冬葉

こうざんにしき（光山錦）夏葉

ごしょにしき（御所錦）

こきんらん（古金欄）冬葉

こきんらん（古金欄）夏葉

こだいしゅう（五大州）

こくうんりゅう（黒雲龍）冬葉

こくうんりゅう（黒雲龍）夏葉

ことひらにしき（琴平錦）

ことぶき（寿）

こまどり（駒鳥）冬葉

こまどり（駒鳥）夏葉

さざなみ（漣）冬葉

さざなみ（漣）夏葉

しうんでん（紫雲殿）

しずまつにしき（静松錦）

しっぽうにしき（七宝錦）冬葉

しっぽうにしき（七宝錦）夏葉

しちふくじん（七福神）

しのくに（篠国）冬葉

しのくに（篠国）夏葉

しゅうざん（秀山）

しゅうほうにしき（秀峰錦）

しゅんざん（春山）

しょうわにしき（昭和錦）

しんじゅ（真珠）

じんだい（神代）

ずいうんにしき（瑞雲錦）冬葉

ずいうんにしき（瑞雲錦）夏葉

せいかいなみ（青海波）

せかいのず（世界ノ図）

せつげっか（雪月花）

せんしょうにしき（戦勝錦）

たいしょうにしき（大正錦）

たいようにしき（太陽錦）

たにまのゆき（谷間ノ雪）

たまにしき（玉錦）

たまやまにしき（玉山錦）

たんちょう（丹頂）

ちきゅうにしき（地球錦）

ちくまのかがやき（千曲の輝）冬葉

ちくまのかがやき（千曲の輝）夏葉

ちよだにしき（千代田錦）

ちよのほまれ（千代ノ誉）

ちよのまつ（千代ノ松）

てんこう（天晃）

てんにょのまい（天女ノ舞）

ときわ（常盤）

なみちどり（波千鳥）

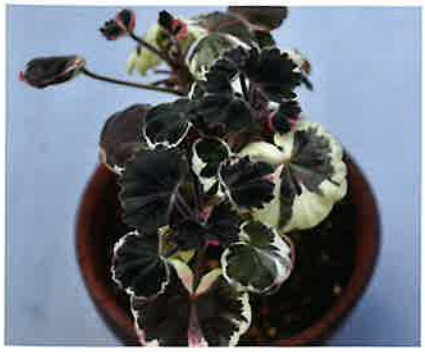
にしきづる（錦鶴）

はくちょう（白鳥）

はくほう（白宝）

はごろも（羽衣）

はごろもじし（羽衣獅子）


はごろもにしき（羽衣錦）冬葉

はごろもにしき（羽衣錦）夏葉

はごろものまつ（羽衣ノ松）

はなみかど（花美可登）

はなむらにしき（花村錦）

ひのでづる（日ノ出鶴）

ひのまる（日ノ丸）

ひめちどり（姫千鳥）

ふじにしき（不二錦）

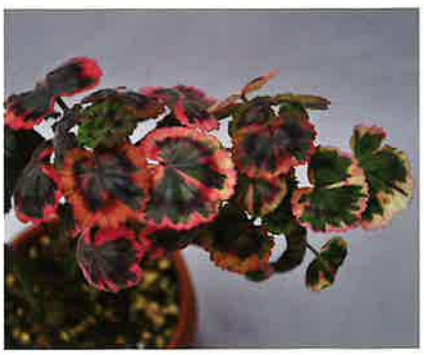
ふじのゆき（富士ノ雪）

ふぶきのまつ（吹雪ノ松）

へいあんにしき（平安錦）

べにちどり（紅千鳥）

ほうおうにしき（鳳凰錦）


ほうざん（宝山）

ほまれのにしき（誉ノ錦）

まがたま（曲玉）

まつまえにしき（松江錦）

まなづる（真鶴）

みかわにしき（三河錦）

みやこにしき（都錦）

めいざんにしき（明山錦）

ももやまにしき（桃山錦）

やちよにしき（八千代錦）

やまとにしき（大和錦）

れいざんにしき（麗山錦）

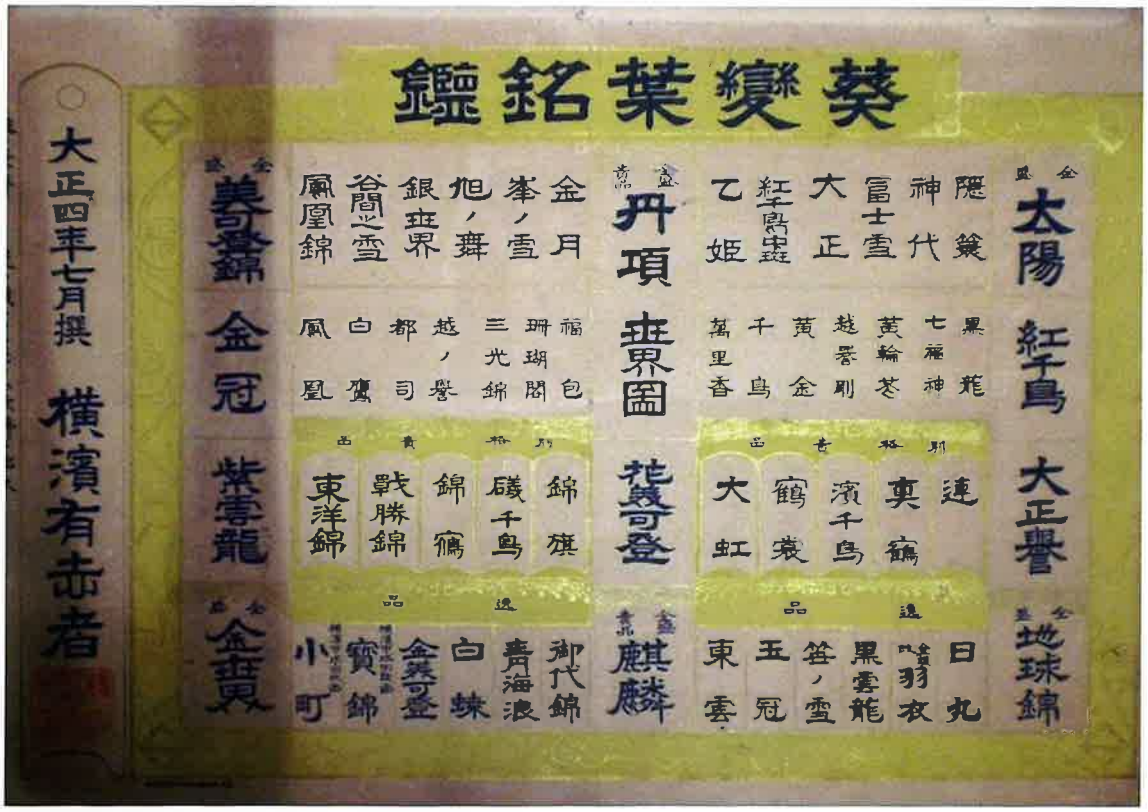
れいほう（麗峰）

銘　鑑（すべて洋紙石版刷）

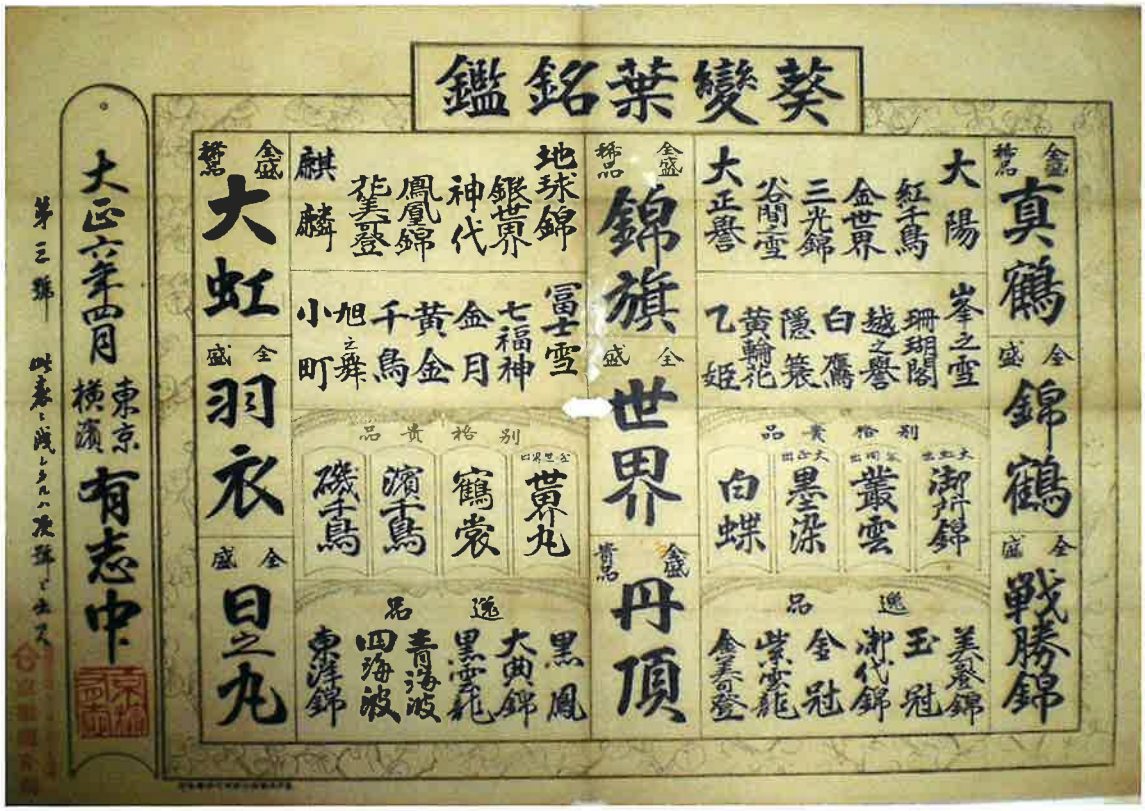
1. 葵銘鑑　東京群馬横浜茨城埼玉岩城同好会　大正 3 年 6 月（38.7cm × 55.1cm, 雑花園文庫蔵）

2. 葵葉変見立鑑 第 2 号　越後国三條裏館 鳳鳴園高坂虎松　大正 4 年 1 月（40.0cm × 54.5cm, 雑花園文庫蔵）

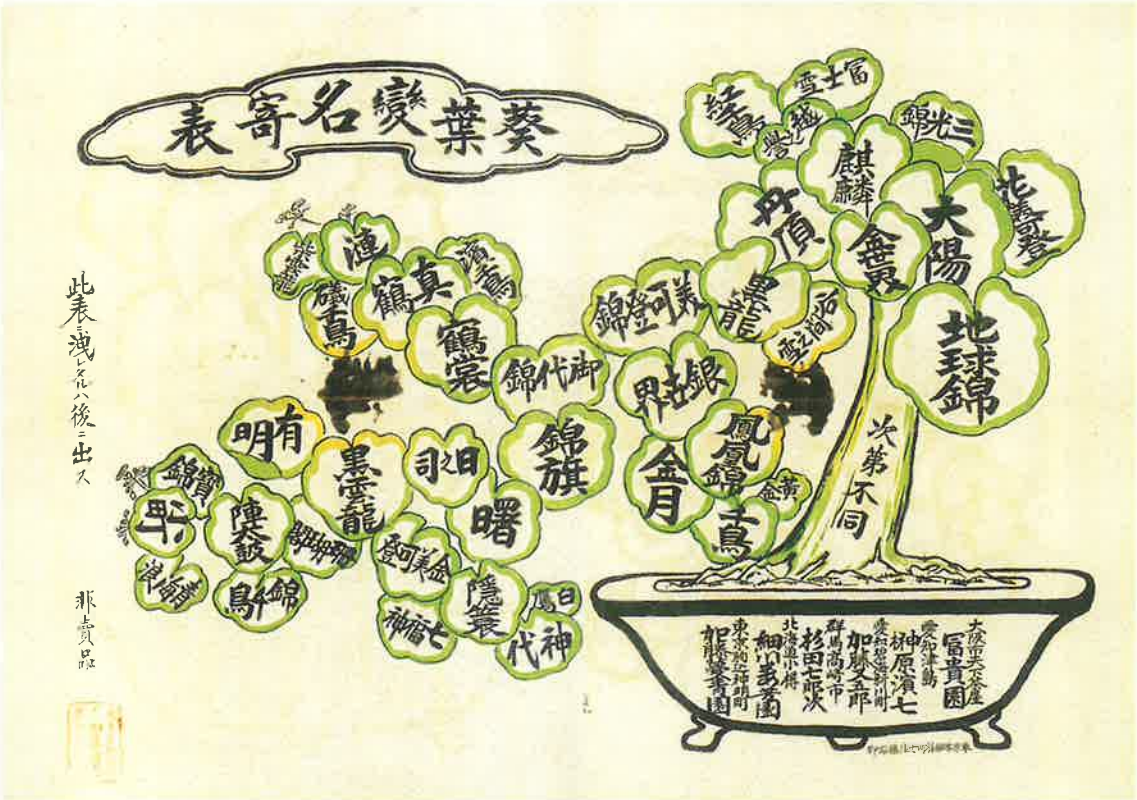
3. 葵変葉銘鑑　越後小須戸同好会　大正４年６月（39.1cm × 54.9cm，雑花園文庫蔵）



4. 葵変葉銘鑑　横浜有赤者　大正４年７月（39.9cm × 54.8cm，雑花園文庫蔵）

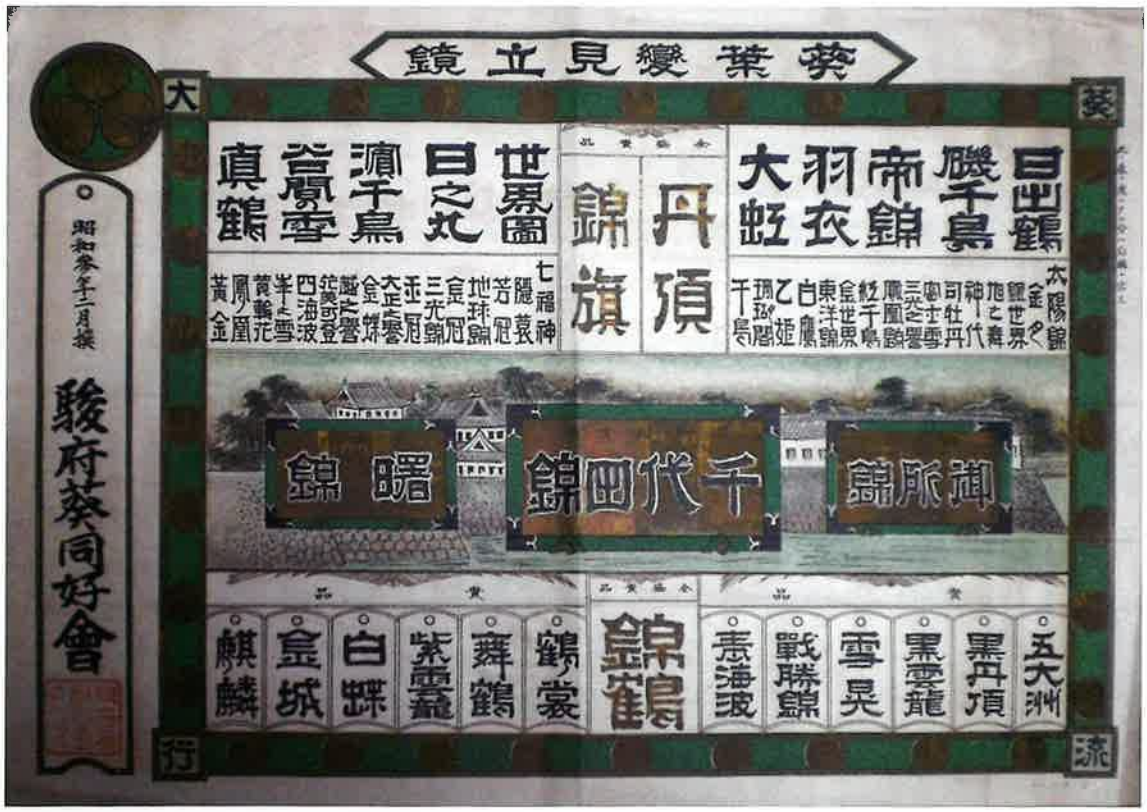


5. 葵変葉銘鑑　東京横浜有志中　大正 6 年 4 月（39.5cm × 55.2cm，雑花園文庫蔵）



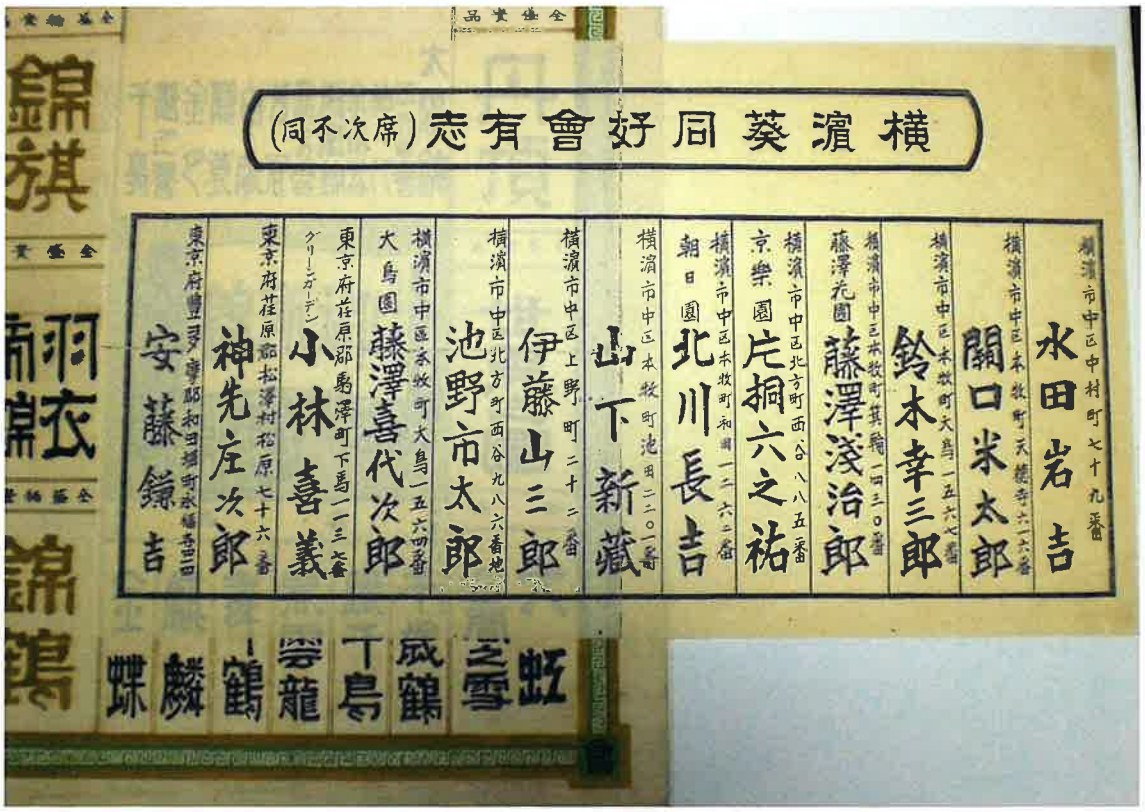
6. 葵葉変名寄表　蔓青園　大正時代（39.8 × 54.6cm，倉重祐二蔵）

7. 葵葉変銘鑑　沼津葵同好会　昭和 2 年 11 月（39.4cm × 54.6cm，雑花園文庫蔵）



8. 葵葉変見立鑑　駿府葵同好会　昭和 3 年 2 月（39.3cm × 55.0cm，雑花園文庫蔵）

9. 葵葉変銘鑑　横浜葵同好会　昭和 3 年 1 月（39.8cm × 54.8cm，雑花園文庫蔵）



横浜葵同好会有志名簿　昭和 3 年 1 月（雑花園文庫蔵）

10. 葵葉変銘鑑　京楽園片桐　昭和 4 年 4 月（39.8cm × 54.8cm，雑花園文庫蔵）

11. 葵葉変銘鑑 第 2 号　三河旭園　昭和 7 年 1 月（39.8cm × 55.1cm，雑花園文庫蔵）

12. 葵葉変銘鑑　京楽園片桐　昭和 7 年 1 月（39.2cm × 54.8cm，雑花園文庫蔵）

13. 葵葉変銘鑑 第 5 号　三河葵同好会　昭和 7 年 2 月（39.0cm × 53.3cm，雑花園文庫蔵）

14. 葵葉変名鑑 第 2 号　沼津葵同好会　昭和 7 年 2 月（39.5cm × 54.7cm，雑花園文庫蔵）

15. 葵葉変銘鑑　花村花園　昭和 7 年 3 月（38.5cm × 53.3cm，雑花園文庫蔵）

16. 葵葉変銘鑑 第3号　三河・旭園　昭和8年1月（40.0cm × 54.0cm，加藤政治蔵）

17. 葵葉変銘鑑　大日本葵協会香川支部　昭和8年3月（39.3cm × 54.8cm，雑花園文庫蔵）

18. 葵葉変銘鑑 第 4 回　大日本葵協会　昭和 14 年 1 月（39.8cm × 54.5cm，雑花園文庫蔵）

19. 葵葉変銘鑑　三河旭園　昭和 14 年 3 月（39.6cm × 54.5cm，雑花園文庫蔵）

20. 変葉葵銘鑑　尾内農園・三木回春園　昭和 14 年 4 月（中村勝廣蔵）

21. 葉変葵銘鑑　大日本葵協会　昭和 15 年 1 月（39.6cm × 54.7cm，雑花園文庫蔵）

22. 葉変葵銘鑑　伊勢崎市葵同好会　昭和 17 年 1 月（40.0cm × 54.0cm，加藤政治蔵）

23. 葉変葵銘鑑　愛知県葵同好会　昭和 17 年春（38.2cm × 54.2cm，雑花園文庫蔵）

24. 葉変葵銘鑑 第 4 号　日本葵同好会　昭和 33 年（38.3cm × 54.0cm，加藤政治蔵）

摘　要

ゼラニウムと変わり葉ゼラニウムの渡来と流行の歴史について，資料調査と聞き込み調査を行った．また，調査の結果，記載のあったすべての品種を抜き出し，情報をまとめた．

ゼラニウムは幕末にオランダから渡来したことが分かった．渡来に関する最も古い記録は『新渡花葉図譜』にあり，元治元年（1864）に尾張に入っていたことが記されていた．渡来後すぐには注目されなかったが，明治後期から辻村農園や横浜植木株式会社などの日本の種苗商によって，欧米からいろいろな品種が輸入されるようになり，徐々に知名度を上げていった．

変わり葉ゼラニウムは，明治42年頃から人気が出始め，大正3年春に新潟県の植木屋が着目して発表したことにより各地に知れ渡った．第1次高揚期は大正3～5年頃であり，輸入品種に日本名がつけられ，各地では同好会組織が結成され，銘鑑が作られるようになった．輸入初期の品種は，葉の薄い大葉系が中心で，枝変わりで珍しいものが現れると固定していた．大正4年頃に輸入された黒雲龍，紫雲龍は葉の厚い小葉系で，より色彩豊かなものであり，これらをもとに日本独自の交配による実生栽培が盛んに始まり，昭和2～4年に第2次高揚期を迎えた．その後，昭和7年には大日本葵協会が設立され，昭和14～15年頃に第3次高揚期と呼べる流行をみせたが，その後戦争により，次第に人気は衰え，二度と回復することはなかった．

種々の資料から品種一覧を作成し，これまでに300を超える品種が日本で栽培されていたことが分かった．すでに現在，それらのほとんどが絶滅しているが，当園では約50品種を，本芸を維持した状態で栽培している．

謝　辞

本研究の遂行および取りまとめにあたり，終始温かいお言葉とご助力を賜りました旭植物園の3代目園主・加藤政治氏に心より感謝申し上げます．

また，園芸史に関する情報収集および論文作成指導を賜りました名古屋園芸株式会社取締役・小笠原左衛門尉亮軒氏，新潟県立植物園副園長・倉重祐二氏，愛媛大学元准教授・山口聰氏，大阪府立大学名誉教授・今西英雄氏，台東区立中央図書館専門員・平野恵氏，練馬区立牧野記念庭園記念館学芸員・田中純子氏，横浜開港資料館主任研究員・平野正裕氏，小田原市立図書館学芸員・鈴木一史氏，日本すみれ研究会会長・田淵誠也氏，日本ベゴニア協会理事・椎野昌宏氏，横浜市在住の岩佐昌子氏に対し，謹んで感謝の意を表します．併せて，国連訓練調査研究所広島事務所・元所長のNassrine Azumiには，英文の助言を賜りました．ここに感謝の意を表します．

さらに，ゼラニウム愛好家である下関市在住の内田祐介氏，札幌市在住の岡林小百合氏，小諸市在住の中村勝廣氏からは苗の分譲や写真撮影などでご援助をいただきました．また，第3章における品種写真のほとんどは広島市植物公園・元技術員の大嵜忠氏から借用したものであり，ここに深く感謝の意を表します．

引用文献

古書籍，図譜，雑誌，単行本および論文

馬場大助．遠西舶上画譜．東京国立博物館蔵．

British and European Geranium Society (ed.) 2008. The Pelargonium. International Register and Checklist of Pelargonium Cultivars. British and European Geranium Society. Scotland.

Clifford, D. 1958. Pelargoniums indluding the popular 'Geranium'. Blandford press. Great Britain.

ガーデンライフ（編）1970．ゼラニウムの花守り．p. 46．ガーデンライフ No.35．誠文堂新光社，東京．

ガーデンライフ（編）1972．ゼラニウムの魅力と作り方．p. 31-34．ガーデンライフ 1972年4月号．誠文堂新光社，東京．

Grieve, P. 1868. A history of variegated Zonal Pelargonium; with practical hints for their production, propagation, and cultivation. Printed for the author. London.

濱島松三郎 1933．斑入葵の流行品種と栽培．実際園芸 14(6): 491-496．誠文堂新光社，東京．

春山行夫 1970. ゼラニウム花の文化史. p. 34-38. ガーデンライフ No. 35．誠文堂新光社，東京．

平野恵 2006. 十九世紀日本の園芸文化－江戸と東京，植木屋の周辺－．思文閣出版，京都．

石井勇義 1925．ゼラニウムの咲かせ方．p. 169-175．石井園芸実際叢書 第一編：西洋草花の咲かせ方．誠文堂書店，東京．

石井勇義 1955. ペラルゴーニウム属. p. 2187-2192. 石井勇義 編者. 園芸大辞典 第5巻. 誠文堂新光社, 東京.
磯野直秀 2007a. 明治前園芸植物渡来表. 慶應義塾大学日吉紀要・自然科学 42: 27-42.
磯野直秀 2007b. 『新渡花葉図譜』: 幕末渡来植物の一資料. 参考書誌研究 67: 1-16.
伊藤圭介・伊藤篤太郎編. 植物図説雑纂. 冊 176. 国立国会図書館蔵.
柏木吉三郎. 本草書残欠. 第24冊, 第25冊. 東京国立博物館蔵.
柏木吉三郎. 倭種洋名鑑. 乾巻. 東京国立博物館蔵.
柏木吉三郎. 白花天竺葵の図. 個人蔵.
片桐八郎 1939. 人気の出始めた斑入ゼラニュームの作り方. 実際園芸 25(4): 565-566. 誠文堂新光社, 東京.
木村陽二郎 1989. 花の日本史. p. 17. 新人物往来社, 東京.
前田次郎 1904. 園芸文庫 第九巻. p. 149-151. 春陽堂, 東京.
牧野富太郎 1908. 植物図鑑. p. 314. 東京博物学研究会 編者. 北隆館, 東京.
満志生 1916. 変葉ゼラニウムの流行熱. 園芸之友 12(5): 482-486. 日本園芸研究会, 東京.
松本芳一 1998. 現代に蘇る紋天竺葵: 五色葉ゼラニューム. p.25-37. 趣味の山野草. 栃の葉書房, 栃木.
松浦正郎 1994. 小田原が生んだ辻村伊助と辻村農園. 箱根博物会, 神奈川.
溝口正也 1980. 斑入葉ゼラニウム. 新花卉 107: 50-53. タキイ種苗株式会社出版部, 京都.
溝口正也 2004. 私の紋天竺葵聞き書き. p. 4-9. 園芸世界 2004年1月号. 改良園, 埼玉.
森口潔 1930. ゼラニュームと仙人掌. p. 1-76. 資生堂, 東京.
中野孝夫 (編) 2005. 明治薔薇年表. オールドローズとつるばらのクラブ, 大阪.
大場秀章 1996. 日本植物研究の歴史－小石川植物園300年の歩み－. p. 38. 財団法人東京大学出版会, 東京.
大場秀章 2009. 植物分類表. p. 114. 大場秀章編著. アボック社, 神奈川.
大場守一 1962. 思い出の園芸人 辻村常助氏をしのぶ. 園芸通信. 坂田種苗株式会社出版部, 神奈川.
佐々木利和 1986. 博物館書目誌稿. 東京国立博物館紀要 21: 137-215.
白井光太郎 1929. 植物渡来考. p. 107. 岡書院, 東京.
小雅園主 1939. 今度はやって来た. 斑入葵の新しい品種. 実際園芸 25(5): 654-655. 誠文堂新光社, 東京.
鈴木千代吉 1909. 天竺葵. p. 222-239. 温室園芸法. 青木嵩山堂, 東京.
伴田四郎 1924. 花より美しい斑入葉ゼラニユーム. p. 7. ガーデン 第2巻第1号. 横浜ガーデン, 神奈川.
伴田四郎 1931. ゼラニウム. p. 281-300. 石井勇義 編纂. 最新花卉園芸: 総合園芸大系第八編. 実際園芸社, 東京.
塚本洋太郎 1989. ペラルゴニウム属. p. 362-371. 塚本洋太郎 監修. 園芸植物大辞典 4. 小学館, 東京.
上野益三 1987. 遠西舶上書類. p. 87-99. 忘れられた博物学. 八坂書房, 東京.
渡辺又日庵. 新渡花葉図譜. 坤巻. 国立国会図書館蔵.
横浜市勧業課 1933. 横浜に於ける花卉の生産並販売状況. 横浜市, 神奈川.
横浜植木株式会社 (編) 1914. ペラーゴニウム. 園芸植物図譜 第九輯. 横浜植木株式会社, 神奈川.
横浜植木株式会社 (編) 1915. 斑入葉ゼラニウム. 園芸植物図譜 第二巻・第十一輯 斑入葉葵の巻. 横浜植木株式会社, 神奈川.
横浜植木株式会社 (編) 1993. 横浜植木株式会社100年史. 横浜植木株式会社, 神奈川.

定価表, 目録など

旭植物園. 旭植物園生産目録. 1959 ～ 1987.
不休園. 園芸目録. 1927 ～ 1931.
株式会社学農社. 営業案内. 1917.
開拓使第一号官園. 西洋花草種子定価. 1873.
三河旭園. 三河旭園商報. 1935, 1951.
妙華園. Spring Catalogue. 1923.
長尾草生園. 営業案内・観賞植物定価表. 1919.
日本種苗株式会社. 農林種苗代価表. 1916.
沼津農園. 春季特別号. 1933.
戸畑閑農園. 園芸恩師. 1934.
東京興農園. 園芸便覧. 1933.
東京興農園. 興農雑誌第83号. 1901.
東京三田育種場. 明治農報第3巻第34号. 1901.
辻村農園. 園芸植物目録第一輯. 年代不詳.
横浜ガーデン. ガーデンタイムス. 1924 ～ 1929.
横浜植木株式会社. 定価表および園芸要覧. 1908 ～ 1936.

銘鑑，賞状，写真など（年代順）（敬称略）

葵銘鑑．東京群馬横浜茨城埼玉岩城同好会．大正3年6月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変見立鑑 第2号．越後国三條裏館 鳳鳴園高坂虎松．大正4年1月．（雑花園文庫蔵）

葵変葉銘鑑．越後小須戸同好会．大正4年6月．（雑花園文庫蔵）

葵変葉銘鑑．横浜有赤者．大正4年7月．（雑花園文庫蔵）

葵変葉銘鑑．東京横浜有志中．大正6年4月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変名寄表．蔓青園．大正時代．（倉重祐二蔵）

葵葉変銘鑑．沼津葵同好会．昭和2年11月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑．横浜葵同好会および有志名簿．昭和3年1月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変見立鑑．駿府葵同好会．昭和3年2月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑．京楽園片桐．昭和4年4月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑 第2号．三河旭園．昭和7年1月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑．京楽園片桐．昭和7年1月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑 第5号．三河葵同好会．昭和7年2月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変名鑑 第2号．沼津葵同好会．昭和7年2月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑．花村花園．昭和7年3月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑 第3号．三河・旭園．昭和8年1月．（加藤政治蔵）

葵葉変銘鑑．大日本葵協会香川支部．昭和8年3月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑 第4回．大日本葵協会．昭和14年1月．（雑花園文庫蔵）

葵葉変銘鑑．三河旭園．昭和14年3月．（雑花園文庫蔵）

変葉葵銘鑑．尾内農園・三木回春園．昭和14年4月．（中村勝廣蔵）

葉変葵銘鑑．大日本葵協会．昭和15年1月．（雑花園文庫蔵）

葉変葵銘鑑．伊勢崎市葵同好会．昭和17年1月．（加藤政治蔵）

葉変葵銘鑑．愛知県葵同好会．昭和17年春．（雑花園文庫蔵）

葉変葵銘鑑 第4号．日本葵同好会．昭和33年．（加藤政治蔵）

全国大流行葵見立鏡．年代不詳．（加藤政治蔵）

葵葉変美術懸賞連合大会での賞状．昭和3年．（雑花園文庫蔵）

伊勢崎園芸組合主催・第一回葵葉変懸賞大会での記念写真．昭和2年．（加藤政治蔵）